

令和7年度 第1回 都筑区地域福祉保健計画推進委員会 次第

日時：令和7年7月3日（木）

午前10時から12時まで

場所：都筑区役所 6階大会議室

【開会】

【議題】

1 令和6年度 つづき あい基金助成金 助成報告について【5分】資料1

2 第5期都筑区地域福祉保健計画策定進捗状況および
区民意見募集について【20分】資料2

3 意見交換【85分】資料3 資料4
第5期都筑区地域福祉保健計画素案(案)について
『区民意見募集について』
・意見募集の周知方法など

『素案の内容について』
・多様性に関連する文言や掲載内容について
・素案全体を通して気になる箇所など

【講評】

【事務連絡】

【閉会】

次回推進委員会の予定：令和7年8月頃（書面）

都筑区地域福祉保健計画推進委員会名簿(50音順、敬称略)

令和7年7月1日時点

	役員氏名	団体名及び役員肩書
	1 大野 和子	都筑区保健活動推進員会 会長
	2 河野 伸二郎	都筑区歯科医師会 会長
	3 木村 博子	都筑区主任児童委員連絡会 代表
	4 桑原 正盈	都筑区老人クラブ連合会 会長
	5 小泉 雅二	都筑区社会福祉協議会 ボランティア・市民活動等分科会 会長
	6 小嶋 貴之	都筑区中学校長地域福祉保健関係担当 横浜市立中川中学校 校長
	7 小林 達夫	都筑区民生委員児童委員協議会 会長
	8 小林 雅子	都筑区医師会 理事
	9 坂田 信子	都筑区障害児・者福祉団体連絡協議会 会長
	10 佐藤 洋子 (代理:武智 絢乃)	都筑区子育て支援センターポポラ 運営法人理事長
	11 志田 政明	青少年指導員連絡協議会 会長
	12 高橋 美都子	都筑区小学校長地域福祉保健関係担当 横浜市立茅ヶ崎小学校 校長
	13 林田 育美	都筑多文化・青少年交流プラザ(つづきMYプラザ) 館長
	14 堀内 哲也	つづき地域活動ホームくさぶえ 所長
	15 堀越 淳子	都筑区食生活等改善推進員会 会長
	16 村田 輝雄	都筑区社会福祉協議会 会長
	17 吉野 富雄	都筑区連合町内会自治会 会長
経験者 学識者	18 名和田 是彦	法政大学法学部 教授

令和6年度「つづき あい基金」助成金 配分団体

資料 1

1.地域福祉保健活動を推進するための活動方法や調査研究、研修、検討にかかる費用
→【前期、後期ともに申請なし】

2.区計画及び地区別計画の推進に関する広報紙やチラシの発行 →【前期3件、後期0件】

No.	新規／継続	団体名 代表者名	発行部数 回数	助成 金額	事業の目的	前期 後期
1	継続	茅ヶ崎南MGCRS 連合自治会 萩野 幸男	2,200部 年2回	10,000円	地域における福祉保健活動の広報・周知不足を解消するために広報を発行する。（令和3～5年度も発行。年2回）	前期
2	継続	山田連合町内会 宮内 康一	2,400部 年2回 (すみれが丘町内会2回)	10,000円	広報紙を配布することにより、町会の行事に興味をもってもらい役員の活動を知らせることで、現在町会に関わっていない日も参加しやすく安心して暮らせる町づくりを周知できる。	前期
3	新規	都田地区 社会福祉協議会 石井 清史	10,000部 年1回	20,000円	地区内全体に周知をすることで、子育て世代でない方にも関心を持って取り組んでもらうことや地区内の活動を知ってもらうきっかけとなる。	前期

3.デジタル媒体を活用し、地域福祉保健活動を推進するための備品整備にかかる費用やホームページ、SNS等による周知・啓発に係る費用 →【前期0件、後期1件】

No.	新規／継続	団体名 代表者名	購入予定品名 購入品の使途	助成 金額	事業の目的	前期 後期
1	新規	都田地区 社会福祉協議会 石井 清史	<ul style="list-style-type: none"> 二次元コードやURLが掲載されたのぼり旗の作成 LINEスタンプの作成 缶バッジ作成 	100,000円	のぼり旗を小学校へ配分し、LINEスタンプや缶バッジで発信することで、地域福祉保健計画を知らない人にも地域で行っている取組の周知を行うことができる。	後期

4. サロンなどの地域福祉保健活動の活動費（新規事業に限る） →【前期、後期ともに申請なし】

令和7年度

つづき あい基金

「つづき あい基金」助成金は、第4期福祉保健計画に関する課題の解決に向けた活動を資金面からバックアップする助成金です。

申請受付期間

前期：6月2日（月）～7月18日（金）

後期：10月10日（金）～11月21日（金）

地域活動に
ぜひご活用ください！

令和6年度の助成金活用事例

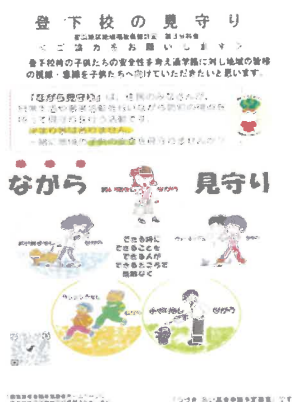
助成額：10,000円

広報紙の作成



助成額：20,000円

チラシの作成



助成額：100,000円

見守り活動周知グッズ・
LINEスタンプの作成



【問合せ・ご相談】

横浜市都筑区社会福祉協議会

☎ 045-943-4058

〒224-0006 都筑区荏田東4-10-3



助成対象

下記いずれかに該当する活動を行っている団体



第4期都筑区
地域福祉保健計画

①第4期都筑区地域福祉保健計画に掲げる推進の柱に寄与できる活動

第4期都筑区地域福祉保健計画 推進の柱

- ①であいが広まり、つながりのある地域づくり
- ②お互いにささえあい、必要な人に支援が届く仕組みづくり
- ③地域における様々な主体が連携しながら、地域がもつ力をわかちあえる地域づくり

②第4期地区別計画に掲げる15地区の取組を推進する活動

15地区の計画

「東山田」「山田」「中川」「勝田茅ヶ崎」「かちだ」「新栄早湊」「都田」「池辺」「佐江戸加賀原」「川和」「荏田南」「渋沢」「茅ヶ崎南MGCRS」「ふれあいの丘」「柚木荏田南」の15地区の計画です。

対象活動・金額

※1. 3. 4. は、計画期間中1回に限ります。

1. 地域福祉保健活動を推進するための活動方法や調査研究、研修、検討にかかる費用
【上限3万円】
2. 区計画及び地区別計画の推進に関する広報紙やチラシの発行
【上限2万円】
※1,000部につき5,000円を助成
3. デジタル媒体を活用し、地域福祉保健活動を推進するための備品整備にかかる費用やホームページ、SNS等による周知・啓発に係る費用
【上限10万円】
4. サロンなどの地域福祉保健活動の活動費（新規事業に限る）
【上限5万円】



本会HPトップページのニュース欄に「申請のてびき」を掲載しておりますので、詳細はこちらをご確認ください。



令和7年度 第5期都筑区地域福祉保健計画 （区計画）について

都筑区役所 福祉保健課



2025年7月3日 都筑区地域福祉保健計画推進委員会用

本日のご説明

- 1 計画の策定根拠や位置づけ
- 2 策定に向けたこれまでの経過（令和6年度～）
- 3 令和7年度 第5期地域福祉保健計画策定スケジュール概要
- 4 第5期地域福祉保健計画「素案(案)」について
- 5 区民意見募集について
- 6 本日の意見交換について

1 計画の策定根拠や位置づけ

- ・ 社会福祉法第107条に規定された計画です。
- ・ 地域共生社会の実現に向けて計画を完成することだけが目的ではなく、策定の過程や推進も大切にしています。

計画策定を通じて

- ▶ 地域の現状や課題を明らかにする 「こんな状況なんだ」「この取組はやっぱり大事だね」
- ▶ より良い地域づくりに向けた目標を共有する 「みんなで同じ方向に向かっていこう」
- ▶ 取組を強化したい課題や不足している取組を検討する「この課題はもっと頑張れたらいいね」「どうしたらこの問題を解決できるかな」

それぞれの立場や団体で見えている状況が異なりますが、「**地域をより良く**」は共通です。
地域福祉保健計画は、福祉保健の枠を超えて、区全体で策定を進めます。

2 策定に向けたこれまでの経過

(1) 関係団体・青少年へのヒアリング

大切なキーワードや課題

民生委員・児童委員

- ・誰もが納得できる日常生活を送れるように、孤立しないような支援が必要。
- ・身近な関係団体(高齢、障害関係等)と連携できる仕組みが必要。

主任児童委員

- ・表に出てこない方へのアプローチが難しい。
- ・子どもを真ん中において、障害の有無、国籍等関係無しに、地域のみんなで支援できとよい。
- ・子どもと高齢者が交流できる仕組みがあると良い。

青少年指導員

- ・高校生になると地域で顔が見えなくなる。地域と中学生・高校生を結ぶイベントがあったらよいと思う。
- ・青少年がお手伝いとしてではなく、「楽しく、前向きに」主体的にボランティアに参加できる機会が必要。

自立支援協議会

- ・当事者が安心して地域とつながれるよう、支援者が橋渡しできると良い。
- ・障害理解やメンタルヘルスに関して、子どもたちへの普及啓発を進めたい。
- ・見えないSOSをキャッチするために、地域の民生委員やケアプラザ等とつながり、情報共有できると良い。

保健活動推進員

- ・単に健康づくりを進めるのではなく、人とのつながり(出会い、理解していく)を大切にしている。
- ・他団体とのコラボにより、あらゆる年代の方に健康づくりの活動に参加してほしい。

地区社協分科会

- ・上手に世代交代をしていくにはどうしていくか。
- ・困りごとを話せる地域、困りごとを人ごとにしらない地域にしていこう。
- ・見守りが進んでいるまちになってほしい。

抜粋です



2 策定に向けたこれまでの経過

(1) 関係団体・青少年へのヒアリング②

大切なキーワードや課題

ボランティア分科会

- ・隣の人とのつながりが少ない。
- ・枠を限定せずに知り合える場づくり。
- ・活動を発信していくことが大切。
- ・活動場所の確保。公共施設をもっと使いやすくしてほしい。

北部ユースプラザ

- ・利用者の5割が20代であり、就労でも進学でもない居場所が求められている。
- ・無償や有償のボランティア活動先を開拓できると良い。
- ・家庭内不和、虐待、国籍、労働問題、多重債務等、複雑に課題が絡んでいる利用者が多い。

老人クラブ

- ・交通手段が少ない。免許を返納すると外出が難しくなる。
- ・老人クラブがどの地域にもあり、活性化されるとよい。
- ・老人クラブの活動についてもっと知ってもらえると良い。
- ・70代前半の方に入会してほしい。

青少年

- ・自分でボランティア活動を選べるのが良かった。
- ・ボランティアでは、普段関わる機会のない人と、関わるができるのが楽しい。
- ・横断歩道での見守りなどやってみたいけど、どこに連絡したらいいかわからない。

区役所

- ・複合的な課題を抱えた方・世帯へ対応するために、地域を含めたネットワークが引き続き必要。
- ・地域活動を引っ張っていく人の固定化・不足による負担の増加。
- ・区民に届く情報発信の工夫が必要。

抜粋です



2 策定に向けたこれまでの経過

(2) 令和6年12月 都筑区地域福祉保健計画推進委員会

<推進委員会の様子>



<いただいたご意見(抜粋)>

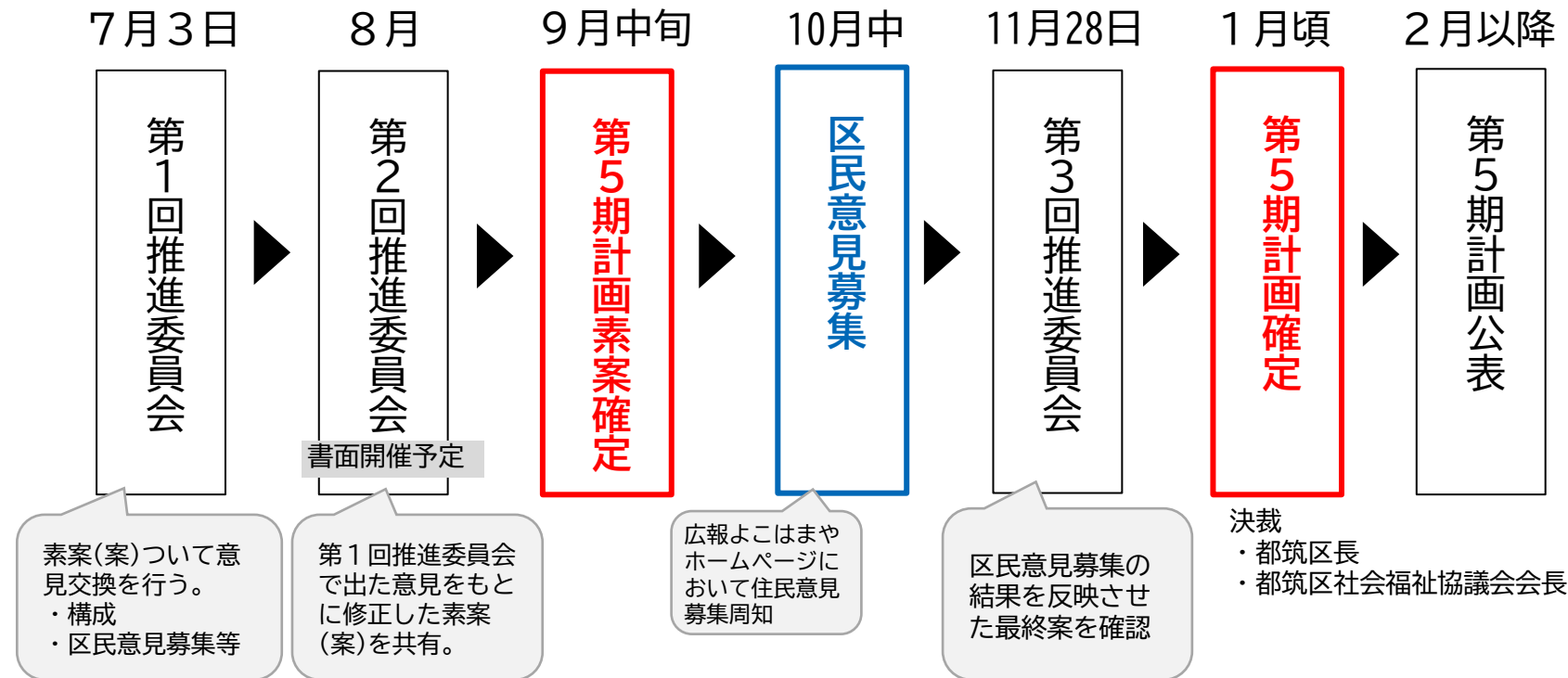
- ・お互いを認め合うという「多様性」「尊重」など基本的なところが大事。
- ・子どもや若い世代、外国人など、地域福祉保健計画を知らない人に、計画をどのように知ってもらうかが大切だと思う。
- ・計画を知ってもらいたい子育て層や働き世代には出会いの場がない。仕事をしている人が多いが、もう少し出会う場所があっても良い。

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

3 令和7年度 第5期計画策定スケジュール概要

(1) 全体スケジュール



3 令和7年度 第5期計画策定スケジュール概要

(2) 推進委員会での協議事項

①第1回推進委員会（7月3日）

素案(案)の構成や区民意見募集の方法について意見交換

← 本日は

②第2回推進委員会（書面開催）

第1回推進委員会の意見を反映した素案(案)を送付、ご確認いただく

【素案確定】

素案について区民意見募集（10/1～10/31）

③第3回推進委員会（11月28日）

区民意見募集の結果を反映した最終案について意見交換

4 第5期地域福祉保健計画「素案(案)」について

素案(案)について、抜粋し次の4点について説明いたします。

- (1) 都筑区の概要と統計データ
- (2) 基本理念及び目指す姿と取組文言（骨子案からの変更点含む）
- (3) 計画の振り返りについて（第4期計画からの変更点）
- (4) その他（第4期計画からの変更点）

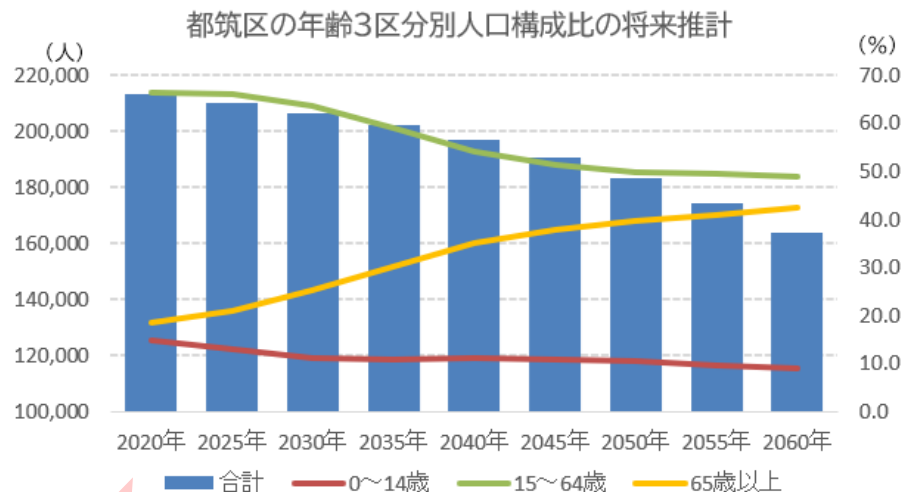
ここからは、区民意見募集を行う素案(案)の内容について説明します！



4 第5期地域福祉保健計画「素案(案)」について

(1) 都筑区の概要と統計データ①（素案(案)P.6、26～）

令和7年の人口は約21万4千人（1月1日基準）であり、前年(令和6年)の約21万5千人を下回りました。将来推計によると、今度人口の減少が続く見込みです。



出展: 横浜市統計情報ポータルサイト

将来推計では、人口構成比の大きな変更が予想されています。

4 第5期地域福祉保健計画「素案(案)」について

(1) 都筑区の概要と統計データ② (素案(案)P. 6、26～)

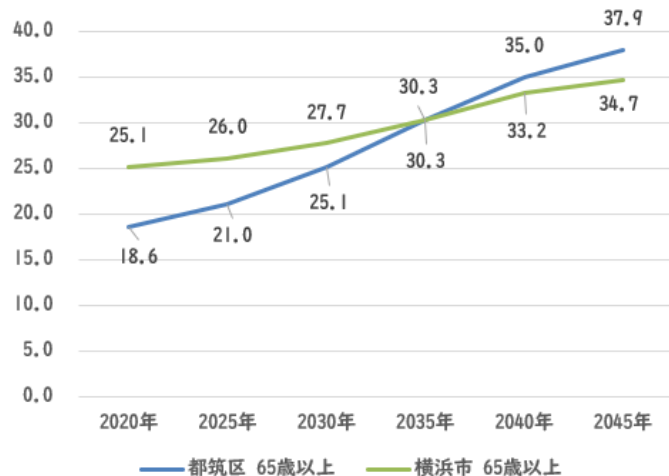
将来推計によると、2035年には65歳以上の人口割合が、2039年には75歳以上の人口割合が、**横浜市全体の平均を超すことが予想**されます。

⑤ 高齢化

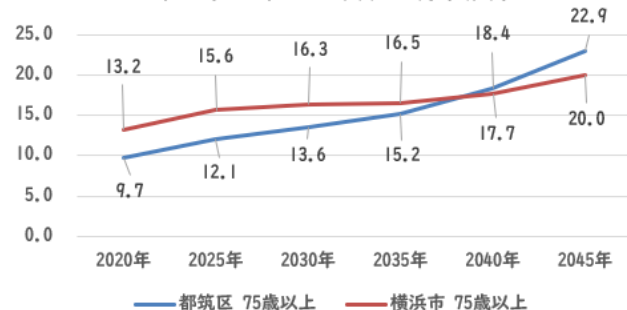
現在は、高齢化率が
18区中16位。
(2025年1月1日時点)
2035年以降、高齢化率が
横浜市平均を超える予想。



横浜市と都筑区の高齢化率
(65歳以上)の将来推計



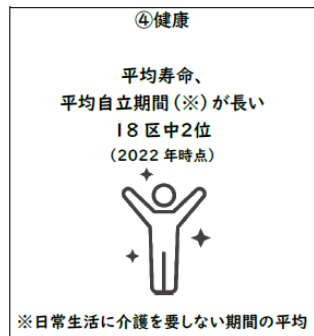
横浜市と都筑区の後期高齢者
(75歳以上)人口割合の将来推計



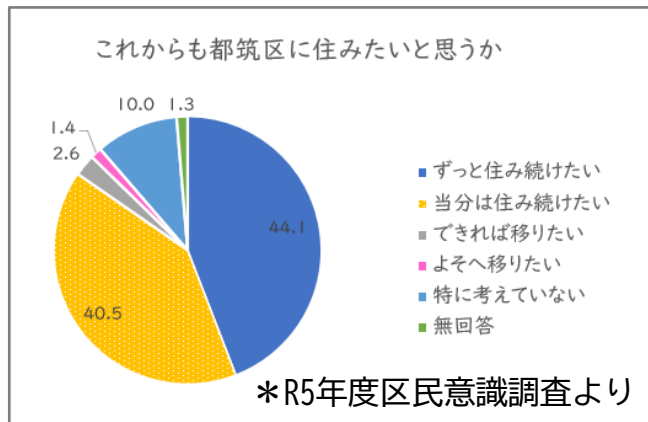
4 第5期地域福祉保健計画「素案(案)」について

(1) 都筑区の概要と統計データ③ (素案(案)P. 6、26～)

*平均自立期間(2020年～2022年の平均値)と平均寿命(2022年)



	男		女	
	平均自立期間	平均寿命	平均自立期間	平均寿命
横浜市	79.74年	81.34年	83.94年	87.35年
都筑区	81.27年	82.85年	85.01年	88.33年



元気な方が多いことも特徴です。
区民意識調査では、
「都筑区に住み続けたい(ずっと又は当分は)」と考える人が8割を超えています。

4 第5期計画素案について

(2)基本理念及び目指す姿と取組文言（素案(案) P.11）

人口構造の変化や、人々の価値観の多様化が進む中、身近な地域におけるささえあいを継続しながら、よりよい都筑区を目指すために、地域福祉保健計画が目指す**基本理念**や**目指す姿**を設定しました。

基本理念

誰もが安心を実感しながら
健やかに住み続けられるまち つづき♡（あい）を目指して

第4期から更新

目指す姿1

であいが広がり、
つながる機会がたくさんある（であい）

目指す姿2

ささえあい、
健やかに生活できる（ささえあい）

目指す姿3

多様性が尊重され、
その人らしく生活できる（わかちあい）

明記

4 第5期地域福祉保健計画「素案(案)」について

(2)第5期計画のポイント（素案(案) P. 8）

第4期計画までの振り返りや、団体ヒアリング等の結果を踏まえ、第5期計画では、次の視点をポイントとしました。

多くの人が身近な地域活動に関心を持ち、気軽に参加できる環境づくり

誰も取り残さない地域づくり

多様性の尊重

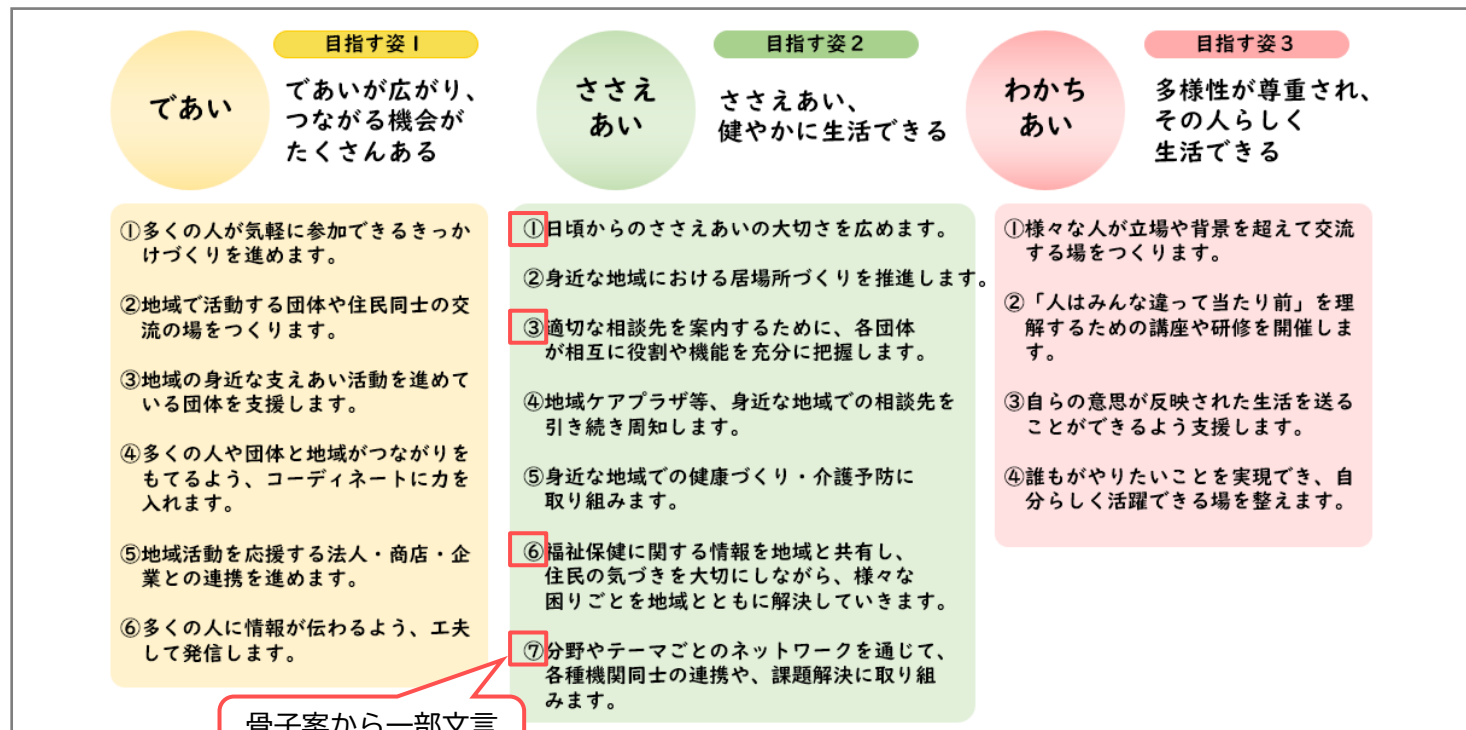
多様な主体との協働



4 第5期地域福祉保健計画「素案(案)」について

(2)基本理念及び目指す姿と取組文言（素案(案) P. 9,10)

ポイントを踏まえ、目指す姿に対する各取組を策定しました。



骨子案から一部文言
の修正があります。

4 第5期地域福祉保健計画「素案(案)」について

(2)基本理念及び目指す姿と取組文言(骨子案からの変更点)(素案(案)P.15)

実際の取組や振り返りを見据え、次の3つの取組の文言を修正しました。

◆目指す姿② ささえあい、健やかに生活できる

- ・ 2-① 日頃からのささえあいの大切さを広め~~ます~~め、共に考えます。
- ・ 2-③ 各種相談窓口で相談を受けるにあたり、適切な相談先を案内~~する~~ために、各団体が相互に役割や機能を十分に把握~~します~~。
- ・ 2-⑥ 福祉保健に関する情報を地域と共有し、住民の気づきを大切に~~し~~て~~ながら~~、様々な困りごとを地域とともに解決していきます。

4 第5期地域福祉保健計画「素案(案)」について

(2)基本理念及び目指す姿と取組文言(骨子案からの変更点②)(素案(案)P.15)

実際の取組や振り返りを見据え、次の2つの取組の文言を統合しました。

◆目指す姿② ささえあい、健やかに生活できる

- ・ 2-⑥保健・医療・福祉等の分野間による連携を促進します。
- ・ 2-⑧ネットワークを構築し、課題解決に取り組みます。



統合

- ・ 2-⑦ 分野やテーマごとのネットワークを通じて、各種機関同士の連携や、課題解決に取り組みます。

4 第5期地域福祉保健計画「素案(案)」について

(3) 計画の振り返りについて(第4期計画からの変更点)(素案(案)P.21～)

①振り返りを行うにあたって、以下のような課題がありました。

- ・計画期間5年間で、「なぜその取組をやっているのか」が曖昧になってしまう。

「取組の大切さはわかるけど、そもそもなんのためにやっているのだっけ？」

- ・計画期間5年間で、事業として行っている取組の形が変わることがある。

例) ○○事業 → ▲▲事業へ

- ・振り返りは、定量的な指標だけではなく、定性的な評価も重要となる。

(A. 研修会に100人参加した！)

(B. 研修の参加人数は50人にし、研修時間を1.5倍にした！) →満足度up

明日をひらく都市

OPEN X PIONEER

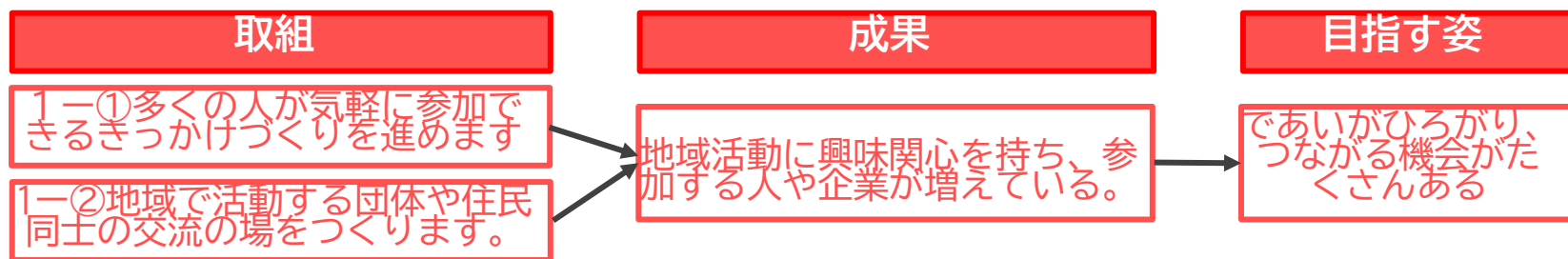
YOKOHAMA

4 第5期地域福祉保健計画「素案(案)」について

(3) 計画の振り返りについて(第4期計画からの変更点)(素案(案)P.23)

②解決策 ➡ 振り返りの「道しるべ」を作成

【例】振り返りの道しるべ フローチャート



○取組を行った結果、「地域にどのような変化があるか」、

「地域がどういう状態になるのが望ましいか」について整理を行いました。

○「取組」-「成果」-「目指す姿」の関係性を分かりやすくしました。

○定量的指標は、「参考指標」として設定します。

4 第5期地域福祉保健計画「素案(案)」について

(4) その他（第4期計画からの変更点）（素案(案)P.30～）

- ・ **ヒアリング結果**や**区民意見募集結果（予定）**も紙面に盛り込み、策定の過程をより分かりやすくしました。
- ・ **推進委員会での経過**や**推進委員名簿**も紙面に盛り込みます。
- ・ 全体のページ数を**35ページ程**とし、多くの人に親しんでいただけるような計画とします。



推進委員みなさまのお名前を冊子へ掲載させていただきますので、ご了承をお願いいたします。

5 区民意見募集について

○概要

素案について本冊子の他、**概要版、やさしい日本語版、英語版**を作成します。

○募集期間

令和7年（2025年）**10月1日～10月31日**まで

○募集方法

電子申請フォーム、電子メール、郵便、FAX

○周知方法

広報よこはま、各連絡会等（連合定例会や民児協等）、
都筑区公式SNS等での周知

＼あなたの声でもっと暮らしやすい都筑区に／
区民意見募集
意見募集期間：2025年10月1日（水）～10月31日（金）

第5期 都筑区地域福祉保健計画
計画期間：2026年度（令和8年度）～2030年度（令和12年度）

つづきあい（素案）

地域の中でこんな取組があったらいいなというアイデア

地域の中でこんな取組があったらいいなというアイデア

地域の中でこんな取組があったらいいなというアイデア

みなさまのご意見をお寄せください

横濱市都筑区役所
社会福祉法人 横濱市都筑区社会福祉協議会
都筑区内地域ケアプラザ（加賀原、葛が谷、新栄、郡田、中川、東山田）

本冊子
二次元コード
調査中

当該本冊子のほか、概要版、やさしい日本語版、英語版で素案をご案内しています。
詳細は、右記二次元コードからご確認ください。

6 本日の意見交換について

委員のみなさま、次の視点でご意見をお聞かせください。

▶区民意見募集について

- ・意見募集媒体や周知先・方法など
- ・委員の皆様のお近くにいる方たちに、地域福祉を伝える・意見をもらうためのアイデア

▶素案の内容について

- ・多様性に関連する文言や掲載内容について

▶その他

- ・素案全体を通じて、気になる箇所など



区民意見募集

意見募集期間:2025 年 10 月 1 日(水)~10 月 31 日(金)

第5期 都筑区地域福祉保健計画

計画期間:2026 年度(令和8年度)~2030 年度(令和 12 年度)

素案の中でこの部分が気になった(関心を持った、表現が分かりにくい)

地域の中で
ご自身ができそうなこと、
やってみたいこと

つづき
あい
(素案)

地域の中で
「こんな取組があったらいいな」
というアイデア

●●●●

みなさまのご意見をお寄せください

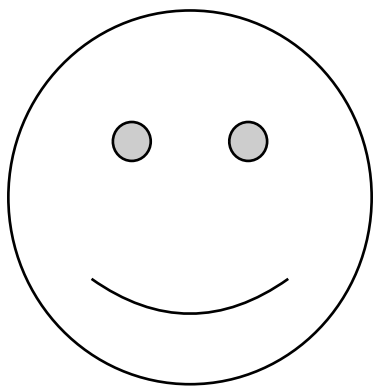


横浜市都筑区役所
社会福祉法人 横浜市都筑区社会福祉協議会
都筑区内地域ケアプラザ(加賀原、葛が谷、新栄、都田、中川、東山田)

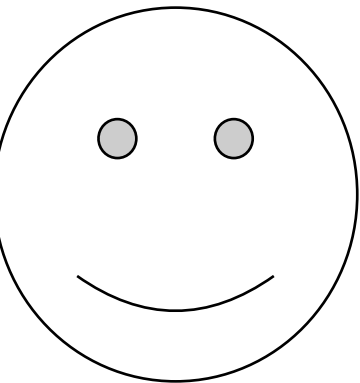
当該本冊子のほか、概要版、やさしい日本語版、英語版で素案をご案内しています。
詳細は、右記二次元コードからご確認ください。

本冊子
二次元コード
調整中

第5期都筑区地域福祉保健計画策定にあたって



区長コメント
(200～300 文字程度)



区社会福祉協議会コメント
(200～300 文字程度)

目次

.....	1
はじめに	1
わたしたちの目指す都筑区	1
第1章 都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」とは	3
1 都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」とは	3
2 計画の対象者	3
3 「つづき あい」の策定の趣旨	3
4 計画の構成	4
5 計画期間	4
第2章 第5期都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」の基本的な考え方	6
1 都筑区の特徴	6
2 第4期計画の振り返り	7
第3章 第5期都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」区計画	9
.....	9
1 計画の全体像	9
2 第5期計画の考え方	11
3 目指す姿・推進に向けた具体的な取組	13
第4章 第5期都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」地区別計画	19
1 地区別計画とは	19
2 地区別計画策定の経過	19
第5章 計画の推進と振り返り	21
1 区計画の推進と振り返り	21
2 地区別計画の推進と振り返り	25
第6章 計画策定の経過と背景	26
1 統計データ	26
2 関係者・関係団体へのヒアリング	30
3 都筑区地域福祉保健計画推進委員会	31
4 都筑区内15地区での話し合い（地域懇談会等）で出た意見	31
5 区民意見募集	31
参考	32
地域福祉保健計画の位置づけ	32
都筑区地域福祉計画推進委員名簿（2024年度・2025年度）	33
※五十音順 敬称略	33

わたしたちの目指す都筑区

都筑区では、さまざまな人がであい、ささえあい、わかちあって生活をしています。

一人ひとりの暮らしや皆さんの関わり合いが地域をつくれます。

第5期都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」が目指す都筑区のまちをイラストで表現しました。

イラスト調整中

イラスト調整中

第1章 都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」とは

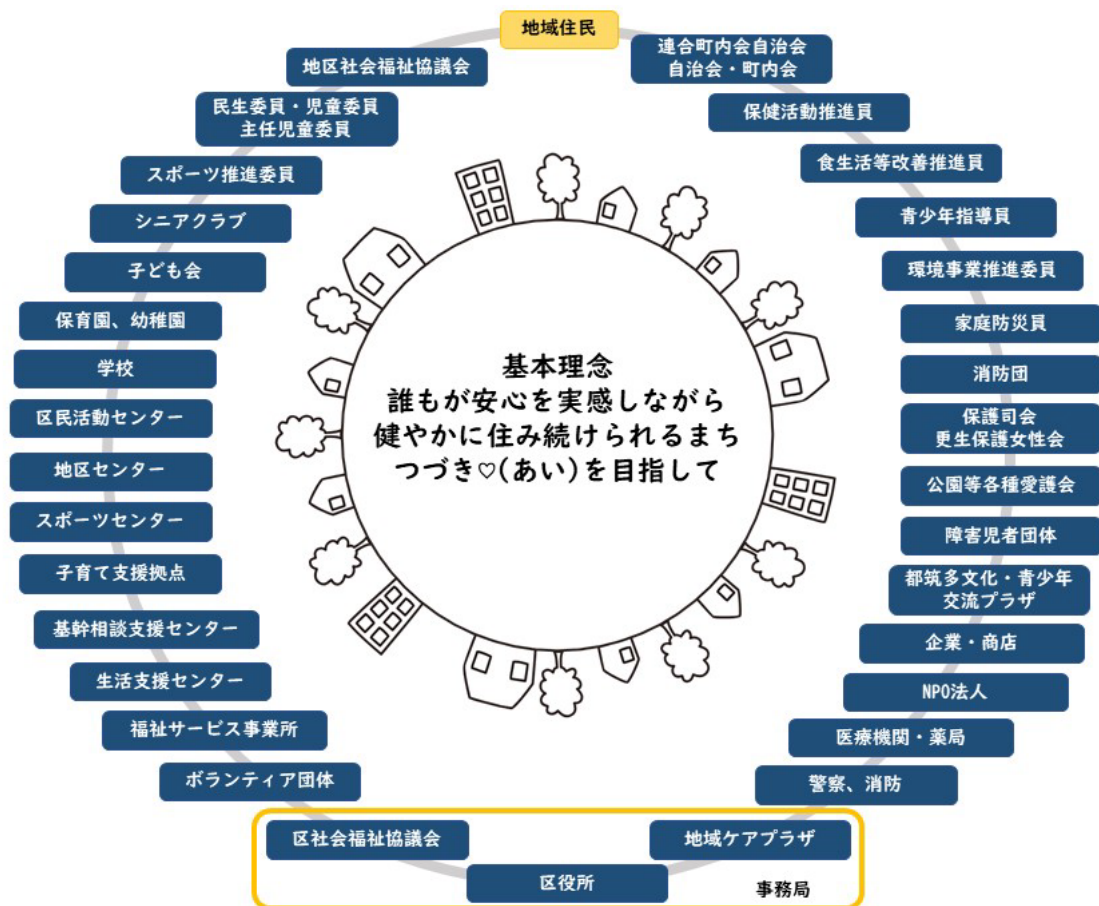
1 都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」とは

誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりを目指し、地域の皆さま、事業者、公的機関（区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ等）が、地域の課題解決に向けて協働して策定・推進する計画です。

都筑区では、地域の皆さまに親しまれるよう、計画の愛称を「つづき あい」としています。

2 計画の対象者

都筑区で生活するすべての人が対象です。



3 「つづき あい」の策定の趣旨

計画の策定・推進を通じて、地域の皆様と関係機関・団体等が都筑区の現状と課題を明らかにすると共に、より良いまちづくりに向けた目標を共有します。そうすることで、地域に関わる関係者や団体が同じ方向を向き、地域の課題解決に取り組むことができます。

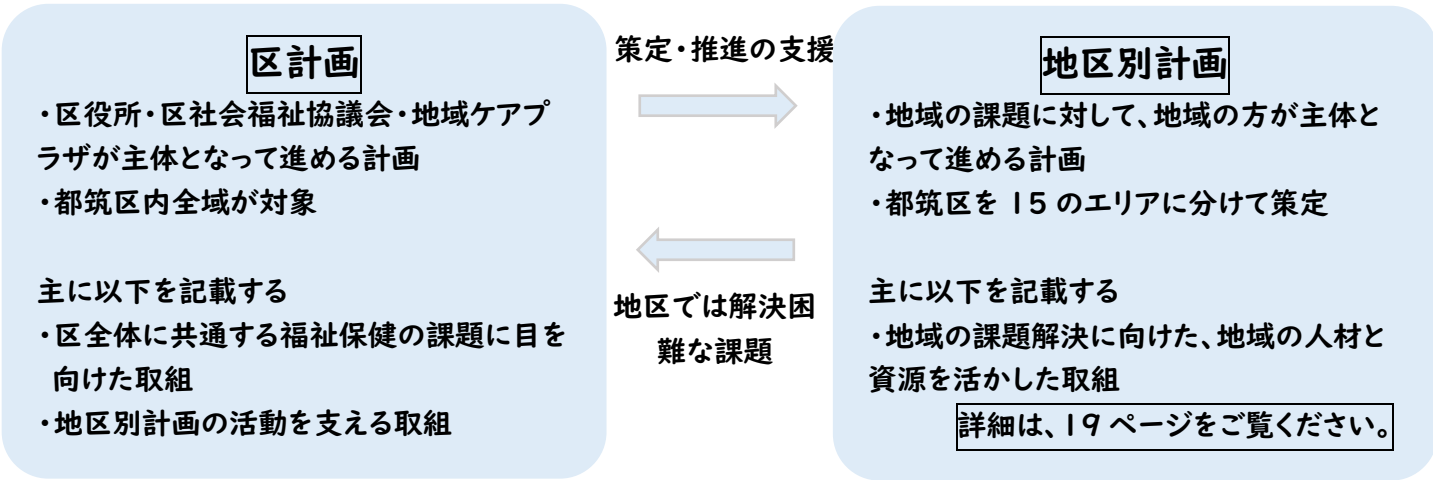
- ・地域福祉保健の現状や課題を明らかにする「〇〇で困っている人が増えているんだね」
- ・より良い地域づくりに向けた目標や取組を共有する「みんなで同じ方向に向かっていこう」
- ・強化したい課題や不足している取組を検討・実施する「どうしたらこの課題を解決できるかな」



立場や団体で見えている状況は違うけど、
「地域をより良く」という想いは共通だね。

4 計画の構成

都筑区地域福祉保健計画は、「区計画」及び「地区別計画」で構成されています。



- ・社会福祉法第107条に、「市町村地域福祉計画」の策定及び公表について位置付けられています。
(詳細は32ページ参照)
- ・横浜市地域福祉保健計画については、横浜市健康福祉局のホームページをご参照ください。
(<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/fukushikaigo/chiikifukushi/hokenkeikaku/chifuku-keikaku-5/shikeikaku-5-pu.html>)



5 計画期間

2026年度(令和8年度)から2030年度(令和12年度)までの5年間です。

2005年度～ 2009年度	2010年度～ 2015年度	2016年度～ 2020年度	2021年度～ 2025年度	2026年度～ 2030年度
第1期 都筑区 地域福祉計画	第2期 都筑区 地域福祉保健計画	第3期 都筑区 地域福祉保健計画	第4期 都筑区 地域福祉保健計画	第5期 都筑区 地域福祉保健計画

◆都筑区社会福祉協議会（以下、区社協）

社会福祉法で「地域福祉の推進を図る」ことを目的に組織された地域の住民や団体・施設が会員として加入している民間の福祉団体です。区社協の目的は、福祉のまちづくりを目指して地域福祉活動を進めることであるため、「自主性」と「公共性」という性格を持っています。区社協は、地域の福祉課題をみんなの課題とし、地域のみんなで話し合い、計画的に解決に向かうよう取り組んでいます。



都筑区社会福祉協議会
キャラクター「ゆいピー」

◆地域ケアプラザ

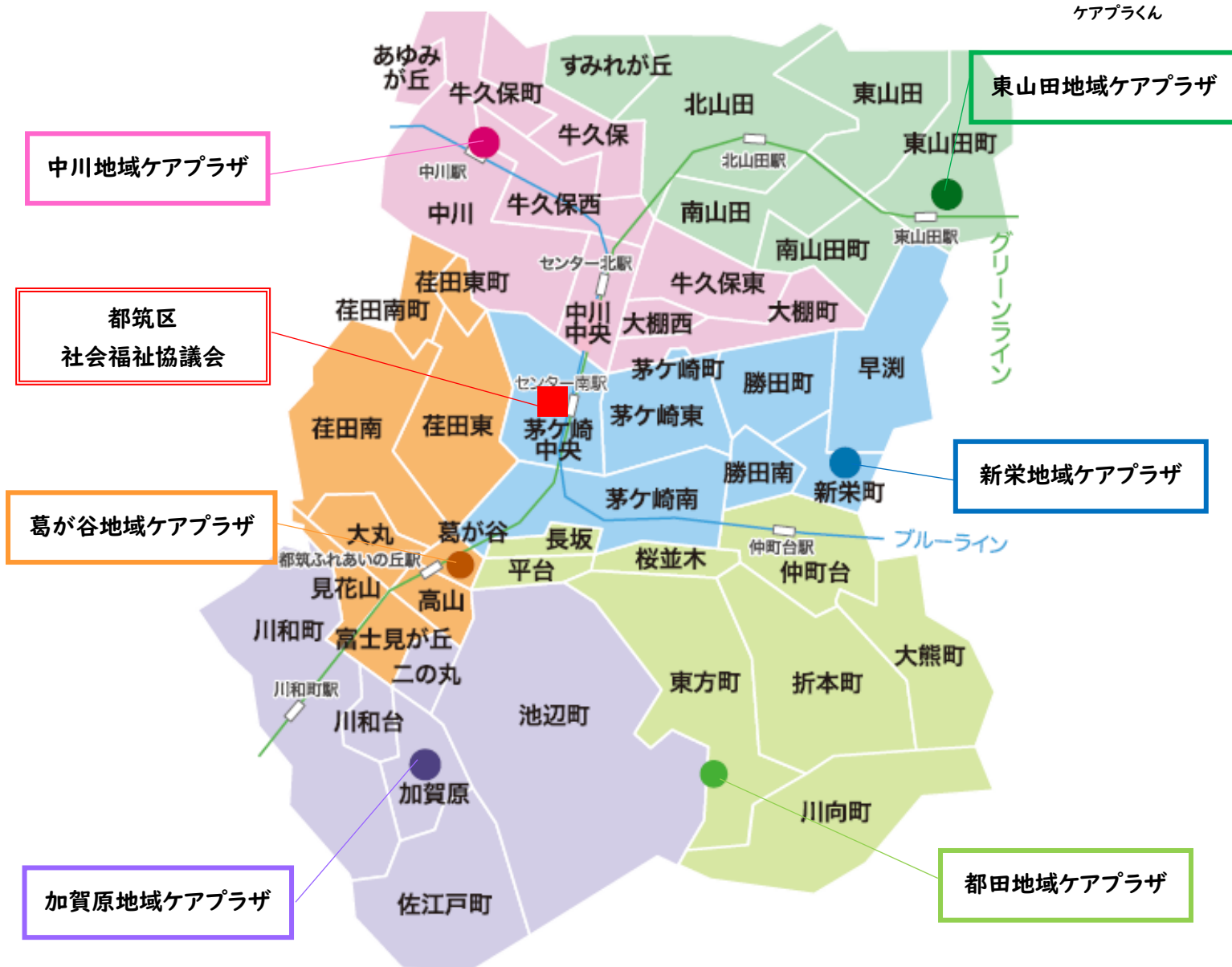
地域ケアプラザは、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、身近な福祉・保健の拠点として取組を行っている横浜市独自の施設です。

生活の困りごとや介護保険等に関する相談・支援のほか、健康講座や子育てサロン等の開催、地域のつながりづくりや福祉・保健活動の支援、交流の場の提供等を行っています。高齢者デイサービスを実施している地域ケアプラザもあります。

「困りごとを相談したい」「地域とつながりたい」「ボランティアをしたい」「場所を借りたい」など、地域での暮らしに関するさまざまなニーズに寄り添います。



ケアプラくん



第2章 第5期都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」の基本的な考え方

Ⅰ 都筑区の特徴

都筑区は、かつて住む人の多くは農業を営んでいましたが、鶴見川沿岸への工場の進出によって、働く人々が大勢通うようになりました。また、港北ニュータウンの開発により、自然を生かした緑の環境や、計画的に整備された道路、身近な公共公益施設などの整備が進みました。現在は、大型商業施設での買い物のために区外から足を運ぶ人も増え、「住む」「働く」「訪れる」「交流する」など、多様な魅力があります。

区が誕生した平成6年(1994年)から約30年間で人口は約2倍に増え、令和7年1月1日時点では、横浜市内で3番目に平均年齢の低い区です。一方で、高齢者人口の伸び率は高く、今後急激に高齢化が進むことが予想されます。

<p>①人口</p> <p>現在の人口は約21万4千人 18区中7位 (2025年1月1日時点) 今後人口は減少する見込み。</p> 	<p>②世帯</p> <p>1世帯あたりの人数が多い。 18区中1位 (2025年1月1日時点) 今後、夫婦のみ世帯が増える見込み。</p> 	<p>③人の動き</p> <p>0～14歳、30歳以上の転入者割合が市平均と比べて多い。 (2025年時点)</p> 
<p>④健康</p> <p>平均寿命、 平均自立期間(※)が長い。 18区中2位 (2022年時点)</p>  <p>※日常生活に介護を要しない期間の平均</p>	<p>⑤高齢化</p> <p>現在は、高齢化率が 18区中16位 (2025年1月1日時点) 2035年以降、高齢化率が 横浜市平均を超える予想。</p> 	<p>⑥経済活動</p> <p>農業、工業、商業が盛ん。 農家戸数18区中1位 (2020年2月1日時点) 製造事業所数18区中2位 商店数18区中4位 (2021年6月1日時点)</p> 
<p>⑦環境</p> <p>自然豊かな緑道や 公園が整備されている。</p> 	<p>⑧交通</p> <p>横浜市営地下鉄ブルーラインとグリーンラインの2路線が走っている。 また、第三京浜道路や神奈川7号横浜北線があり、交通利便性が高い。</p> 	<p>⑨多文化共生</p> <p>84カ国の方が生活している。 (2025年4月末時点)</p> 

2 第4期計画の振り返り

(1) 主な取組と成果

第4期計画では人と人との「であい ささえあい わかちあい」を基本理念とし、3つの推進の柱をもとに取組を進めました。計画期間の前半は新型コロナウイルス感染症の蔓延により、地域の取組を縮小・休止せざるをえなくなりましたが、開催方法を工夫することで、新たな地域活動の形が生まれました。また、地域でのつながりの大切さも改めて認識されています。

推進の柱1 であいが広まり、つながりのある地域づくり

- ・多世代交流事業や自治会町内会の取組の工夫等を行うことで、あらゆる世代の人が気軽に地域と関わるきっかけが広がっています。
- ・お互いを知るための講座や福祉教育、交流できる場を通じて、お互いを認め合い、多様性が尊重される地域づくりが進んでいます。



自治会町内会加入促進イベント



小・中学校での福祉教育

推進の柱2 お互いにささえあい、必要な人に支援が届く仕組みづくり

- ・自ら情報を得ることが困難な区民について、つながる機会を逃さずに情報を提供し、支援につなげる仕組みが出来ています。
- ・会場や時間帯を見直すことで、相談しやすい体制が広がっています。また、手を差し伸べる人も孤立しないよう、ネットワークづくりが進められています。

写真
(CP 土日のあかちゃん会)



水道検針員への困窮制度の説明

推進の柱3 地域における様々な主体が連携しながら、地域がもつ力をわかちあえる地域づくり

- ・新型コロナウイルスで停滞していた社会福祉法人との連携が徐々に再開しています。
- ・青少年のボランティアや身近な生活の困りごとに対するボランティアの輪が広がっています。
- ・住民からの声をきっかけに、民間企業と連携した移動販売が広がっています。



移動販売



ボランティア情報を見ている様子

(2) 第5期計画に引き継がれる課題(第5期計画のポイント)

◆多くの人が身近な地域活動に関心を持ち、気軽に参加できる環境づくり

- ・きっかけがないと地域活動に参加しにくいとの声があるため、活動に関心がある人と活動団体をつなぐコーディネート力の強化が必要です。
- ・地域活動者が少なく、負担が大きい現状があります。多様な人・団体の参入やデジタル化によって、活動が十分に継続できるような工夫が必要です。



◆誰も取り残さない地域づくり

- ・自分で困りごとの表出することが難しい人に対し、周囲が気づき、支援機関等につなぐことができるよう、福祉保健の情報発信や見守りの目を増やすことが必要です。
- ・孤立予防、生きがいのづくりのために、日常生活の中にある居場所の継続・創出が必要です。



◆多様性の尊重

- ・差別や偏見により、本人が生きづらさを感じている場合があります。誰もが尊重され、自分らしく生活できる環境が必要です。
- ・立場や背景で区切らず、お互いを知る機会や、様々な人が交流できる場を継続し、支えあいの気持ちを育むことが必要です。



◆多様な主体との協働

- ・大規模商業施設や学校、NPO法人、地元企業等が数多くある都筑区の強みを生かして、福祉保健活動のすそ野を広げる必要があります



Ⅰ 計画の全体像

誰もが安心して生活しながら 健康やかに住

であい

目指す姿Ⅰ

であいが広がり、
つながる機会が
たくさんある

ささえ
あい

- ①多くの人が気軽に参加できるきっかけづくりを進めます。
- ②地域で活動する団体や住民同士の交流の場をつくりまします。
- ③地域の身近な支えあい活動を進めている団体を支援まします。
- ④多くの人や団体と地域がつながりをもてるよう、コーディネートに力を入れます。
- ⑤地域活動を応援する法人・商店・企業との連携を進めます。
- ⑥多くの人に情報が伝わるよう、工夫して発信まします。

- ①日頃からのささす。
- ②身近な地域におまします。
- ③適切な相談先をが相互に役割や
- ④地域ケアプラザ先を引き続き周
- ⑤身近な地域での取り組みまします。
- ⑥福祉保健に関する住民の気づきを困りごとを地域
- ⑦分野やテーマご各種機関同士のみます。

区役所・
区社協・
地域ケアプラザ
の取組

本理念

生き続けるまち つづき♡（あい）を目指して

目指す姿2

ささえあい、
健やかに生活できる

わかち
あい

目指す姿3

多様性が尊重され、
その人らしく
生活できる

えあいの大切さを広めま

ける居場所づくりを推進

案内するために、各団体
機能を十分に把握します。

等、身近な地域での相談
知します。

健康づくり・介護予防に

る情報を地域と共有し、
大切にしながら、様々な
とともに解決していきます。

とのネットワークを通じて、
連携や、課題解決に取り組

①様々な人が立場や背景を超えて交流
する場をつくります。

②「人はみんな違って当たり前」を理
解するための講座や研修を開催しま
す。

③自らの意思が反映された生活を送る
ことができるよう支援します。

④誰もがやりたいことを実現でき、自
分らしく活躍できる場を整えます。

2 第5期計画の考え方

(1) 基本理念

計画の推進を通じて目指す、都筑区の共通の目標像を「基本理念」として設定しています。

都筑区では、第1期から第4期まで、人と人との「であい ささえあい わかちあい」を基本理念にしてきました。第1期策定から20年が経とうとしている今、目標像に向かってさまざまな取組や地域活動が進む中で、「であい ささえあい わかちあい」が広がった先にある都筑区の姿を、より具体的に、地域のみなさんと共有する必要があると考えました。

都筑区が、「住んでいるみなさんにとって」「社会的にも心理的にも安心を感じながら」「健やかに暮らせるまち」でありたいという思いを込めて、基本理念を設定しました。

基本理念

誰もが安心を実感しながら 健やかに住み続けるまち つづき♡(あい)を目指して

(2) 目指す姿

基本理念の達成に向けた地域の具体的な像として「目指す姿」を整理しています。第1期から第4期までの、人と人との「であい ささえあい わかちあい」の考え方を引継ぎながら、第5期計画では、目指す姿を3つ設定しています。

目指す姿1

であいが広がり、つながる機会がたくさんある

目指す姿2

ささえあい、健やかに生活できる

目指す姿3

多様性が尊重され、その人らしく生活できる

(3) 区役所・区社協・地域ケアプラザの取組

目指す姿に近づくための取組を「区役所・区社協・地域ケアプラザの取組」として記載しています。人と人がつながるきっかけである「であい」をつくり、そのうえに「ささえあい わかちあい」ができるような人のつながりを広げていくという考え方を継承し、取組を進めていきます。

「つづき あい」の「安心」には色んな意味が込められているよ。

- ◆社会的な「安心」：信頼できる人や地域・環境に囲まれていることで得られる安定感
- ◆心理的な「安心」：心配事がなく、気持ちが落ち着いている状態

人によって「安心」の感じ方は違うからこそ、住民一人ひとりの暮らしや生活課題に着目した取組が必要になってくるんだね。



3 目指す姿・推進に向けた具体的な取組



目指す姿Ⅰ「であい」

であいが広がり、つながる機会がたくさんある

◆背景や課題

- 地域で活動する人の固定化や減少により、負担が増加し、活動の継続が難しくなっている場合があります。
- また、価値観やつながりの多様化で、身近な地域での人と人とのつながりが希薄化しているとの声も聞かれます。
- しかし、困りごとがあっても、自分や家族だけでは解決できない時があります。災害等の緊急時はもとより、日常生活の中でも、共助によるささえあいが重要となります。

◆取組のポイント

- 地域におけるささえあいが今後も継続できるように、地域で活動する関係組織・団体の支援に取り組みます。
- ささえあいを進める第一歩として、多くの人が身近な地域について興味や関心を持ち、地域活動へ気軽に参加できる環境が必要です。
- 地域活動を行うにあたって、価値観や困りごとの変化を捉え、多様な視点を持って進めていくことが必要です。

<区役所・区社協・地域ケアプラザの取組>

① 多くの人が気軽に参加できるきっかけづくりを進めます。

(例: ボランティア講座、ボランティアに関するメールマガジン、地域ケアプラザ広報誌での情報発信、区民活動センターや地区センターの講座、多種多様な趣味活動)

② 地域で活動する団体や住民同士の交流の場をつくります。

(例: 地域懇談会、ささえあい連絡会、地域ケアプラザでの両親教室、拠点団体交流会、ボランティアサロン、福祉保健活動拠点の利用促進、区社会福祉協議会の分科会、ハマロードサポーターの活動、各種サロン、公園等各種愛護会の活動)

③ 地域の身近な支え合い活動を進めている団体を支援します。

(例: 自治会加入促進イベント、都筑スタイル、地区社会福祉協議会への支援、生活支援ボランティア、各種補助金・助成金、地区別支援チーム、地域ごとのネットワーク会議)

④ 多くの人や団体と地域がつながりをもてるよう、コーディネートに力を入れます。

(例: 地域ケアプラザでのコーディネート、ボランティアセンター、はあと de ボランティア、シニア楽農園、学校・家庭・地域連携事業)

⑤ 地域活動を応援する法人・商店・企業等との連携を進めます。

(例: 社会福祉法人との連携、大規模商業施設との連携、フードドライブ、移動販売)

⑥ 多くの人に情報が伝わるよう、工夫して発信します。

(例: 広報よこはま、X、Instagram、パマトコ、やさしい日本語や多言語での表記、やさしいちふく)

コラム1 調整中

コラム2 調整中

コラム3 調整中



目指す姿2 「ささえあい」

ささえあい、健やかに生活できる

◆背景や課題

- 本人自身や家族に困り感がなく、相談できることに気が付かない結果、適切な相談につながらず、様々な課題が深刻化・複雑化することがあります。
- 周囲の人が困りごとに気が付いても、1人では行動できず、抱えてしまう場合もあります。
- 1人でも健康づくり・介護予防の取組は実施できますが、つながりをつくることで、より心身の健康に効果があります。実際に、身近な活動を通じて、顔の見える関係が作られ、安心や生きがいにつながっています。
- 保健・医療・福祉分野の専門職が連携しながら在宅生活を支えています。都筑区では、複合的な福祉保健課題の気付きを高め、切れ目ない支援を行えるよう、多職種連携が進められています

◆取組のポイント

- 困りごとを抱えている人自らが、相談しやすい環境が必要です。
- 事態の深刻化を防ぐために、誰かが変化に気付き、周りの人や機関に早期につながるような、見守り・ささえあい活動が必要です。
- 助けが必要な人も手を差し伸べる人も孤立しないような体制が必要です。
- 引き続き、身近な地域でのつながりを大切にした健康づくり・介護予防を推進する必要があります。

<地域の皆様と区役所・区社協・地域ケアプラザの取組>

① 日頃からのささえあいの大切さを広めます。

(例:災害時要援護者支援、地区社会福祉協議会への支援、地域での見守り活動の支援)

② 身近な地域における居場所づくりを推進します。

(例:こども食堂、サロン、学習支援、子ども支援団体連絡会、ボランティア分科会、園庭開放)

③ 適切な相談先を案内するために、各団体が相互に役割や機能を十分に充分に把握します。

(例:滞納者支援連絡会)

④ 地域ケアプラザ等、身近な地域での相談先を引き続き周知します。

(例:各地域ケアプラザでの出張相談、区民まつり、各種相談先・相談窓口の啓発)

⑤ 身近な地域での健康づくり・介護予防に取り組みます。

(例:保健活動推進委員や食生活等改善推進委員の活動、介護予防事業、健康マップ、元気づくりステーション)

⑥ 福祉保健に関する情報を地域とともに共有し、住民の気付きを大切にしながら、様々な困りごとを地域とともに解決していきます。

(例:地域ケア会議、地区懇談会、ささえあい連絡会、地区別支援チームによるサポート)

⑦ ネットワークを構築し、課題解決に取り組みます。

(例:子育て支援ネットワーク会議、要保護児童対策地域協議会、子どもの支援団体連絡会、自立支援協議会、サポートネット、セーフティネット、地域ネットワーク構築支援事業、認知症連絡会、いわゆるごみ屋敷問題、健康づくりネットワーク会議、多頭飼育問題、都筑区医師会地域多職種連携協議会)

コラム1 調整中

コラム2 調整中

コラム3 調整中



目指す姿3 「わかちあい」

多様性が尊重され、その人らしく生活できる

◆背景や課題

- 様々な立場や背景のある人に対する偏見や差別があることで、本人が生きづらさを感じたり、当たり前で暮らすことが難しくなっていたりする人がいます。
- 子どもや障害者、認知症の方など、本人の思いが尊重されないことがあります。

◆取組のポイント

- 様々な立場や背景を持つ人が、自分らしく生活できたり、活躍できる機会が必要です。
- 地域全体で多様性の理解を広め、支援が必要な時に、声を上げやすい環境をつくる必要があります。

<地域の皆様と区・区社協・ケアプラザの取組>

- ① **様々な人が立場や背景を超えて交流する場をつくれます。**
(例: DE&I フェスティバル、青色プロジェクト、認知症カフェ、福祉農園、障害施設自主販売、インクルーシブ交流事業、防災訓練への多様な人の参加)
- ② **「人はみんな違って当たり前」を理解するための講座や研修を開催します。**
(例: 障害理解講座、認知症サポーター養成講座、福祉教育)
- ③ **自らの意思が反映された生活を送ることができるよう支援します。**
(例: 権利擁護事業、あんしんセンター、虐待防止・対応、エンディングノート)
- ④ **誰もがやりたいことを実現でき、自分らしく活躍できる環境を整えます。**
(例: ユースフェスティバル、共生フェスタ)

多様性について深める
漫画 or イラストで

コラム1 調整中

コラム2 調整中

コラム3 調整中

第4章 第5期都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」地区別計画

1 地区別計画とは

「地区別計画」はそれぞれの地区の特性に合わせ、計画期間に地域が主体となって地域の課題解決に向けた取組を進めるための計画です。

自分たちのまちを「こんなまちにしたい」という、思いが込められた計画で、都筑区内 15 の地区連合町内会及び地区社会福祉協議会エリアを単位として策定しています。

「地区別計画」では、それぞれの地区の概況や、各地区が考える目標と具体的な取組などについてまとめています。

2 地区別計画策定の経過

地区別計画の策定に当たっては、各地区での取組や地域課題について振り返り、第5期計画期間中に目指すべき目標や具体的な取組について、話し合いを進めました。

各地区で開催されている推進委員会や地域懇談会には、自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員等地域で活動する団体から様々な立場の人が参加しています。

また、地域懇談会で把握した各地区に共通する課題については、区計画へも反映させていきます。

地域懇談会等での意見交換

第4期地区別計画の推進・振り返り

- 地域の現状や課題の共有
- 第4期計画の振り返りに関する意見交換

第5期地区別計画の検討・策定

- 各地区での第5期計画における課題と課題解決に向けた目標及び取組項目を検討

各地区で出た意見（抜粋）

- ・地域活動者や地域懇談会の参加者が固定化している
- ・意見は色々出るが、具体的な活動の実現につながらない。
- ・地域活動への若者の参加が少ない。もっと参加してほしい。
- ・子ども（小学生、中学生）の意見を聴きたい。
- ・昔から住んでいる住民と転入してきた住民とのつながりを強化したい。

地域懇談会写真①

調整中

地域懇談会写真②

調整中

【地区別計画冊子】

地区別計画の写真

調整中

ホームページ
二次元コード
調整中

【都筑区連合町内会自治会及び都筑区地区社会福祉協議会エリア図】



第5章 計画の推進と振り返り

Ⅰ 区計画の推進と振り返り

(1) 推進

地域福祉保健計画で掲げた基本理念・目指す姿の実現に向けて、区役所の各部署、区社協、区内地域ケアプラザは、各取組をより具体化し推進します。

例 取組Ⅰ-①多くの人が気軽に参加できるきっかけづくりを進めます。

区役所各部署の取組

区社協の取組

地域ケアプラザの取組

(2) 進捗状況の確認・振り返り

次の方法によって、年度ごとに推進の進捗状況の確認をし、振り返りを行います。

①振り返りの概要及び手順

◆区役所各課・区社協・区内地域ケアプラザによる振り返り

(説明)

区役所・区社協・区内地域ケアプラザは、事業の進捗状況や地域主体による取組を「振り返りの道しるべ」を使用しながら振り返り、取組の成果等を確認します。

集約

◆事務局による総合振り返り

(説明)

各機関での振り返りを集約し、事務局(※)で目指す姿ごとの総合的な振り返りを行います。※区役所福祉保健課・区社会福祉協議会

報告

◆都筑区地域福祉保健計画推進委員会

(説明)

・福祉、保健、医療その他各種団体の代表者や学識経験者の委員から構成される会議です。
・区計画や地区別計画における様々な取組の全体を見渡し、幅広い視点で振り返ります。また、計画全体の推進・進捗確認の場として位置づけ、計画で取り組むべき内容や方針について意見交換を行います。

②振り返りの時期

毎年度実施します。

③振り返りの考え方

振り返りシートを使用し、2つの視点で振り返りを行い、次年度の推進や次期計画策定に活かします。

○目指す姿に近づくための取組の内容や量（取組・アウトプット）

「どのように取組を進めたか」「どの程度取組を進めたか」

例 取組○-○に沿って、ケアプラザでは○○に取り組んだ。

○取組による地域の変化（成果・アウトカム）

「目指す姿にどのくらい近づいたか」

例 取組○-○に沿って、○○の取り組みをした結果、地域に▲▲の変化があった。

道しるべの「アウトカム」を参照しながら、
地域の変化を考えます。

④「振り返りの道しるべ」

第5期計画では、取組が目標や目指す姿に至るまでの流れを、フローチャートの形でまとめています。

このフローチャートを振り返りの際に活用することで、計画した取組と目指す姿の関係が適切か、必要な取組が網羅されているかについて、関係者で検討・共有しやすくなります。

フローチャートは次のページに示しています。

どうして「道しるべ」を作ったの？

この事業、参加者が
昨年より少ないな。

そもそもこの事業は
何の目的でやってい
るんだっけ。

そんな時は、「道しるべ（P.23）」を見て
みよう。

色んな人がこの事業に
関わっているし、何のた
めにやっているか立ち返
ろう。

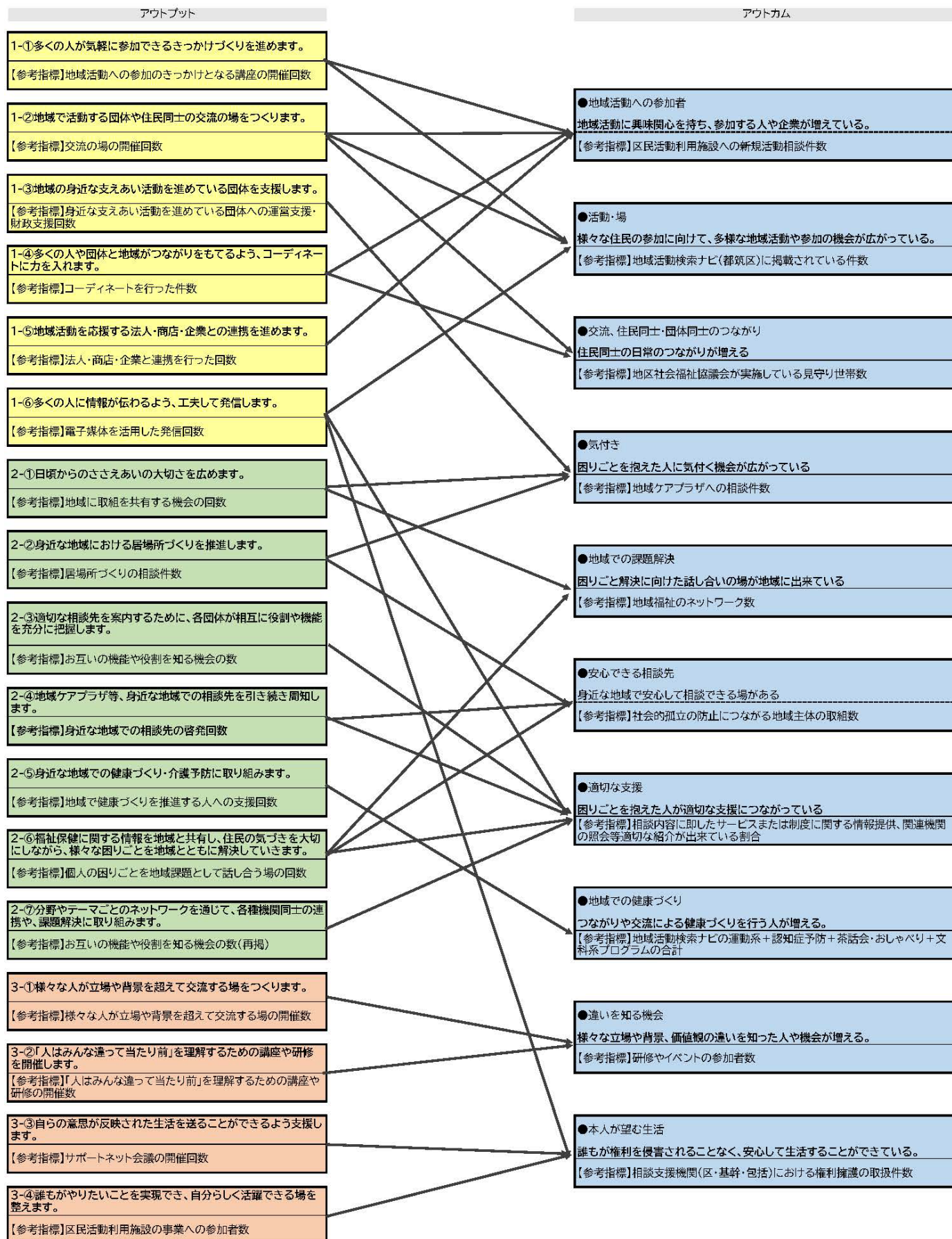
これを目指してや
っていたんだって

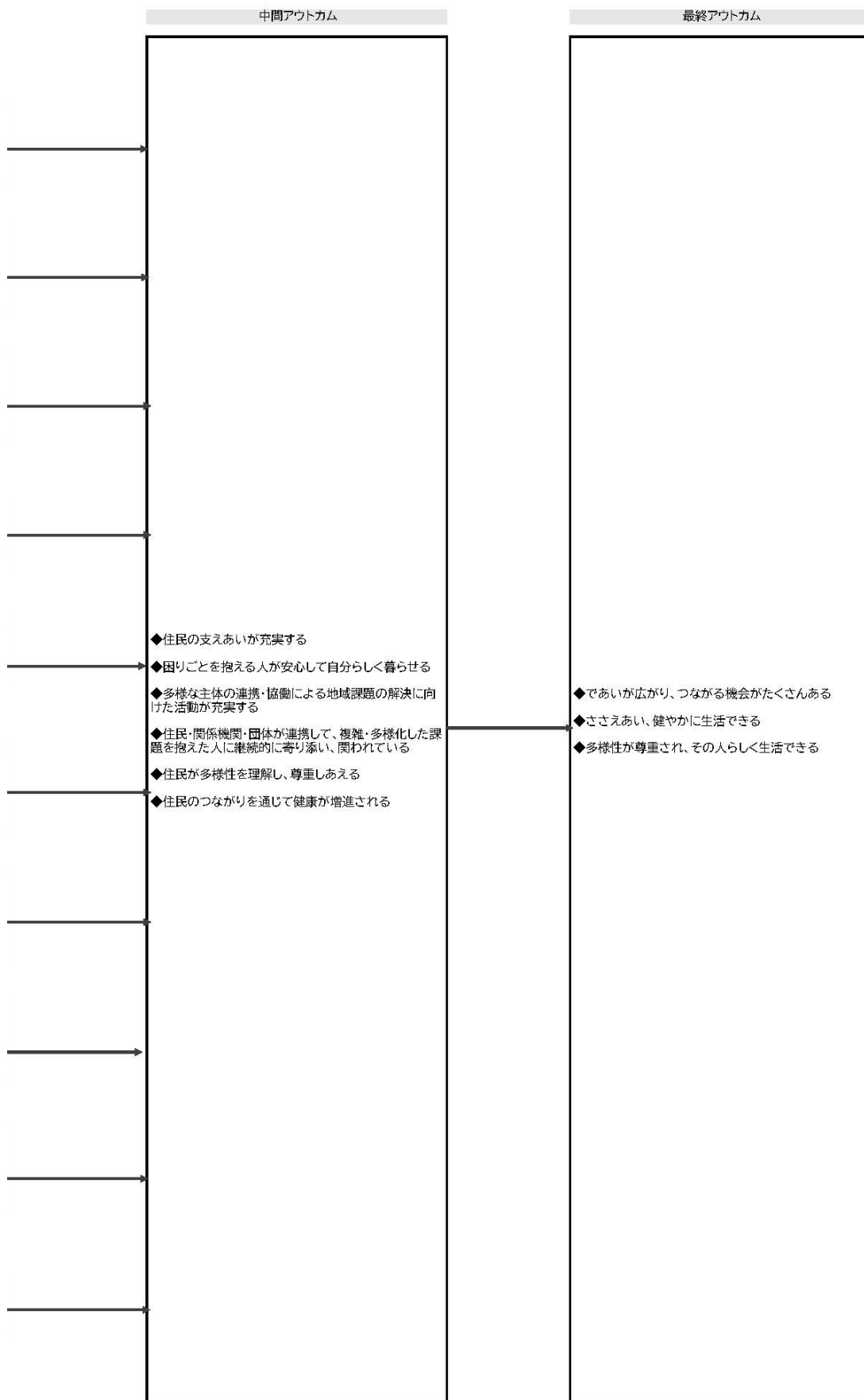
やることに必死にな
って、目指す姿を見
失っていた。

この目的を達成するた
めには他のやり方で
もいいかも！

道しるべがあると、振り返る時に「取り組んだ
こと」だけではなく、「取り組んだ結果どのよ
うな影響があったか」に目を向けやすいね。

「振り返りの道しるべ」フローチャート





2 地区別計画の推進と振り返り

(1) 地区別計画の推進・進捗状況の確認の場

地区別計画には、地域で活動する様々な人や団体が取り組むことが記載されており、進捗状況を確認しながら、取り組んでいく上での課題等を共有する場が大切です。そのため、既存の会議・体制等を活用しながら、継続して地区別計画の推進・進捗確認を行います。

地区別計画の推進にあたっては、区役所、区社協、地域ケアプラザが連携して、地域の様々な活動を支え、応援していきます。

(2) 振り返り

◆振り返りの時期

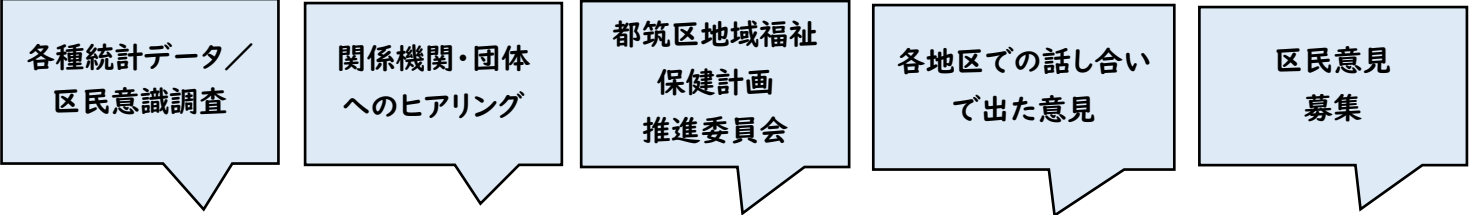
15 地区共通の振り返りは、中間期（計画期間3年目）に実施します。

その他、各地区の状況に応じて、必要時振り返りを行います。

◆振り返りの考え方

- ・地区別計画に掲載している取組が「どの程度実施できたか」を確認し、「継続して取り組むもの」「見直しを検討するもの」「新しく取り組むもの」等を振り返ることで、次の取組につなげます。
- ・振り返りの際は、取組の回数だけではなく継続して実施できていることや、参加者の多様性が進んでいること等についても多角的に振り返ります。

第6章 計画策定の経過と背景

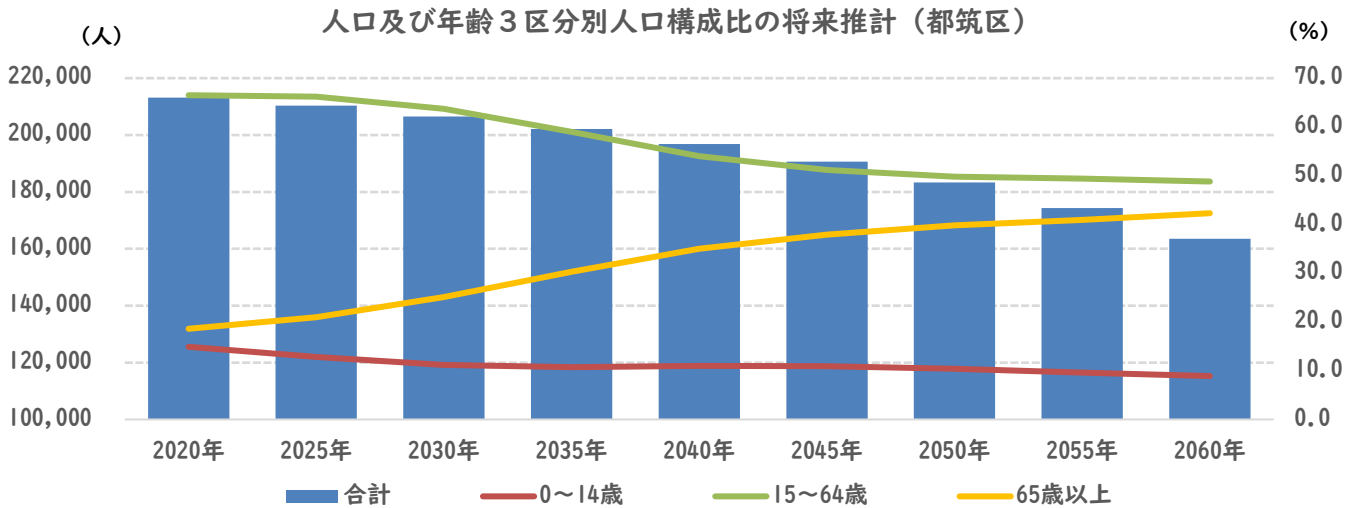


2023 年度「区民意識調査」や各種福祉保健関連の「統計」、地域福祉保健活動に携わっている団体への「ヒアリング」、各団体の代表者や学識経験者から構成された「都筑区地域福祉保健計画推進委員会」、各地域で開催されている「地域懇談会等の意見」、区民意見募集もとに、策定を進めました。

Ⅰ 統計データ

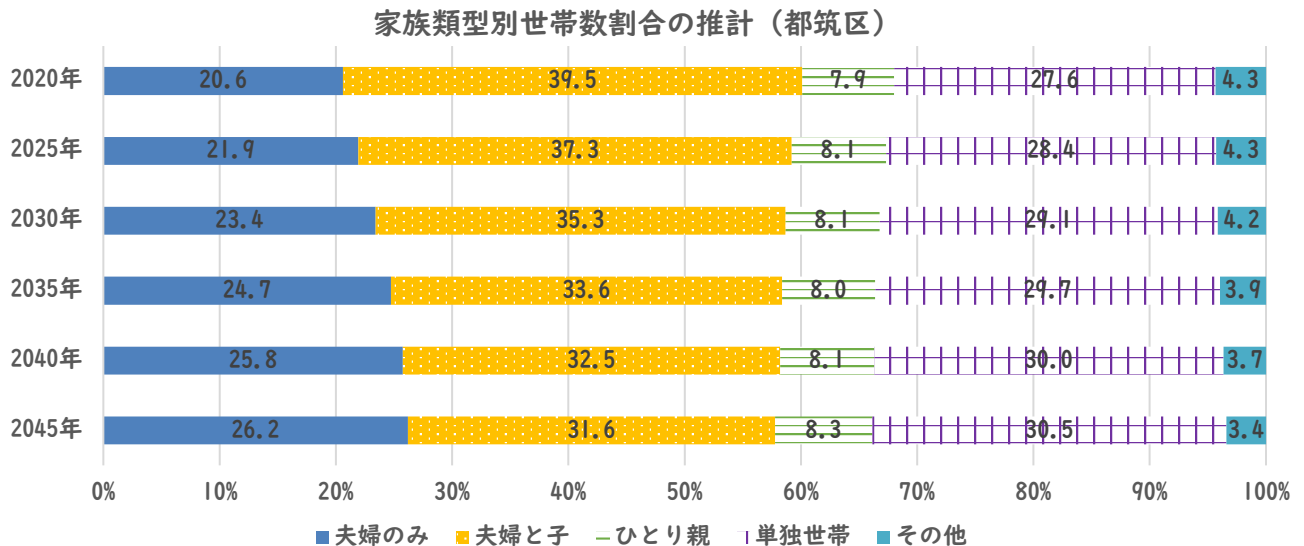
(1) 年齢3区分別人口構成比の将来推計（都筑区）

都筑区の人口は2024年にピークを迎え、それ以降減少傾向が続いています。また、今後、高齢者人口が急激に増加すると推測されています。



(2) 家族類型別世帯数の割合構成（都筑区）

都筑区の世帯数は、2025年4月1日現在、約9万世帯です。「夫婦のみ」や「単独世帯」の割合が今後増加することが見込まれています。



(3) 年齢区分別転入者数・割合（都筑区・横浜市）

転入者の割合において、「0～14 歳」「30 歳以上」の割合が横浜市と比較して高い状況です。「75 歳以上」の転入者の割合も高く、いわゆる呼び寄せ高齢者や施設入所による転入も多いことが推測されます。

2024 年中の年齢区分別別転入者数・割合

	0～5 歳	6～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～64 歳	65～74 歳	75 歳以上
横浜市割合	4.7	3.3	3.4	39.6	23.4	9.8	9.1	2.6	4.1
都筑区割合	7.8	4.9	2.6	29.0	25.3	11.0	9.6	3.1	6.7

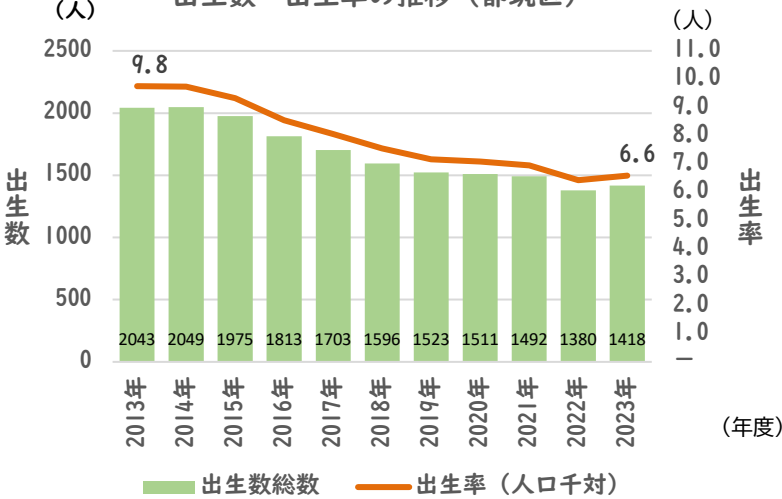
出典：横浜市統計情報ポータルサイト

※横浜市割合よりも高い箇所を赤塗り、低い箇所を青塗りしています。

(4) 子ども

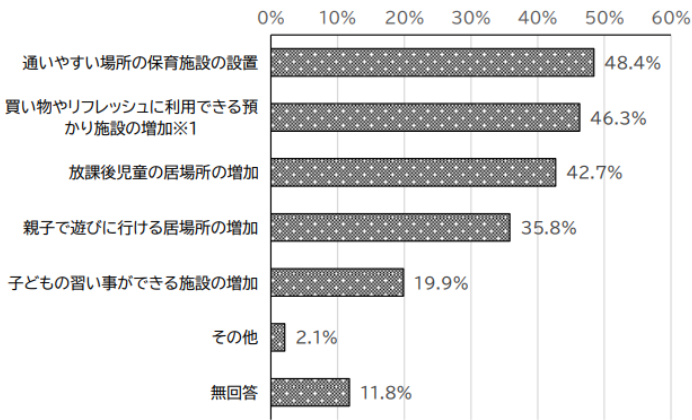
出生数、出生率（人口千対）は減少傾向で、出生率は横浜市内 18 区中 3 位です。子ども関連の居場所・施設は保育施設、預かり施設の充実の他、放課後児童の居場所へのニーズが高いことが伺えます。

出生数・出生率の推移（都筑区）



出典：横浜市統計情報ポータルサイト

子どもに関する居場所・施設について、あるとよい取組(n=1,817)



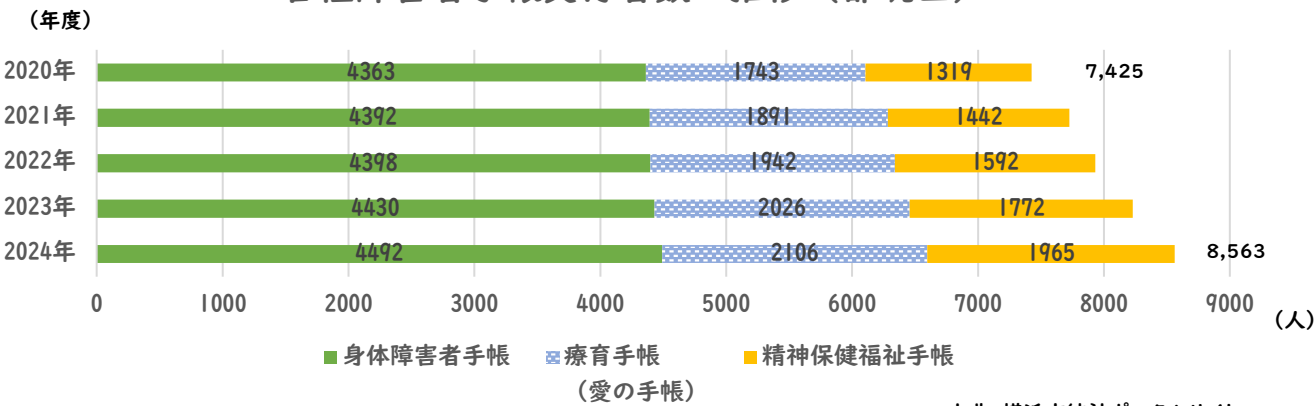
買い物やリフレッシュに利用できる預かり施設の増加※1（一時保育・一時預かりなど）

出典：2023 年度都筑区民意識調査

(5) 障害

各種障害者手帳の交付者数は 2020 年から 2024 年の約 5 年間で 1,138 人増加しています。

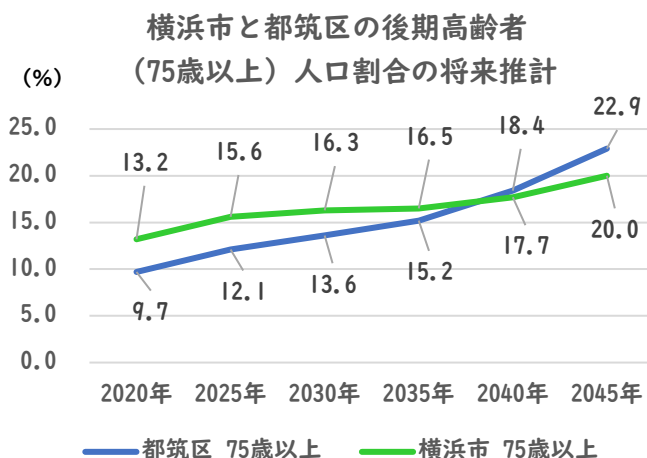
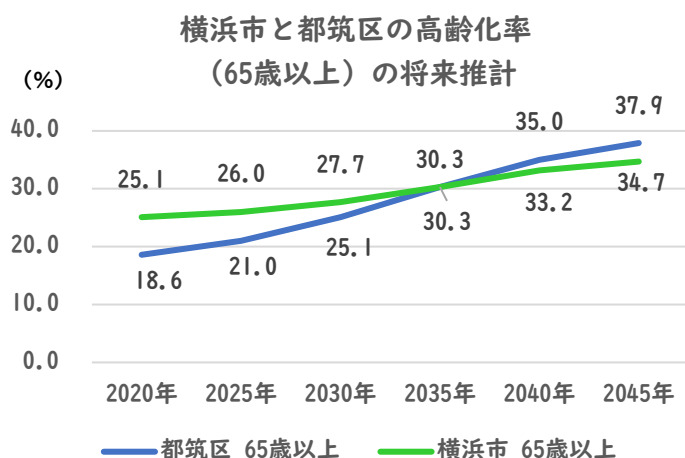
各種障害者手帳交付者数の推移（都筑区）



出典：横浜市統計ポータルサイト

(6) 高齢者

都筑区の高齢化率は2035年(令和17年)に横浜市平均と同程度となり、その後、上回る推計です。また、後期高齢者も急激に増えていく推計です。



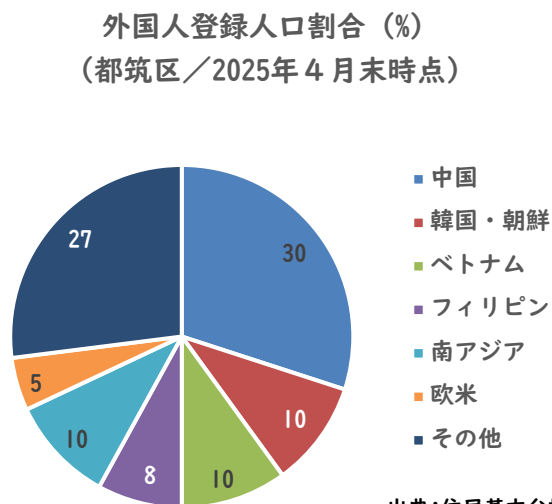
出典：横浜市統計情報ポータルサイト

(7) 外国人

外国人人口は新型コロナウイルスの影響で一時的に減少しておりましたが、現在は回復し増加傾向です。2025年4月末時点で、都筑区には80カ国以上もの国の方々が暮らしています。



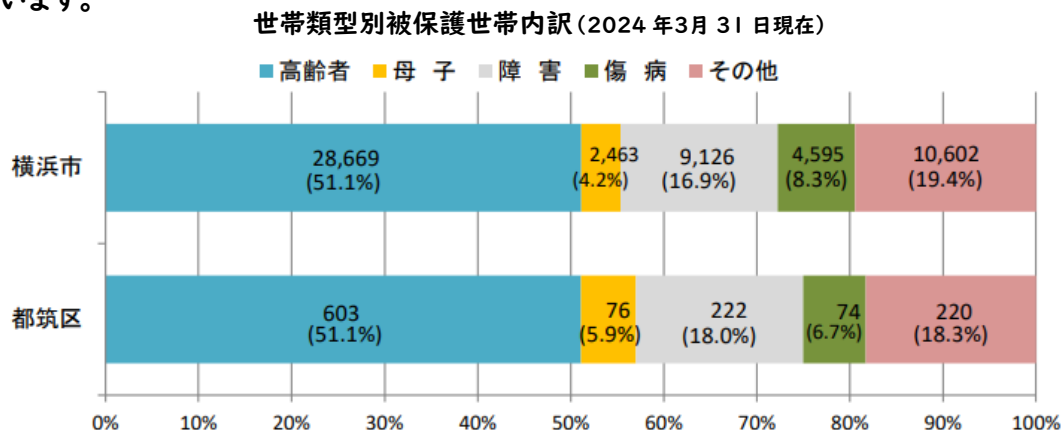
出典：横浜市統計情報ポータルサイト



出典：住民基本台帳

(8) 生活困窮・生活保護

被保護世帯数・人員数は横浜市18区中18位です。世帯類型別日保護世帯の内訳は横浜市と同様高齢者が多い値を示しています。



出典：統計でみるつづき

(9) 健康づくり

平均自立期間(※)は男性が81.27年、女性が85.01年となっており、どちらも横浜市平均より長い結果になっています。

18 区別平均自立期間(2020年～2022年の平均値)と平均寿命(2022年)

	男		女	
	平均自立期間	平均寿命	平均自立期間	平均寿命
横浜市	79.74年	81.34年	83.94年	87.35年
都筑区	81.27年	82.85年	85.01年	88.33年

※平均自立期間:「日常生活に介護を要しない期間の平均」、このあと何年は自立した生活ができるかを示したもので、健康寿命の考え方のひとつ。

出典: 健康福祉局健康推進課

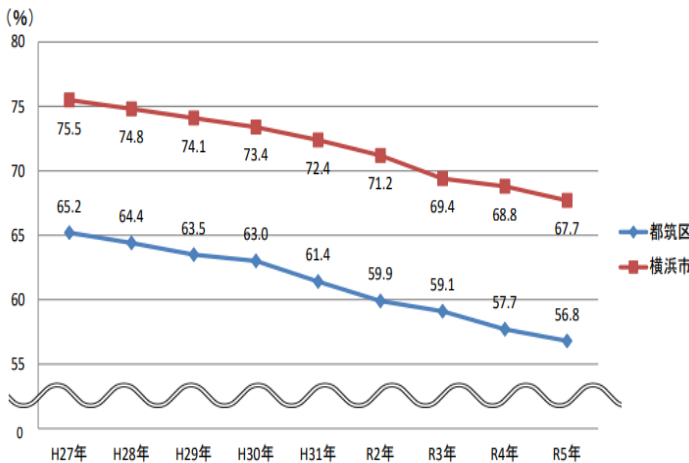
日常生活で介護が必要になる期間が分かるね。



(10) 隣近所とのつきあい

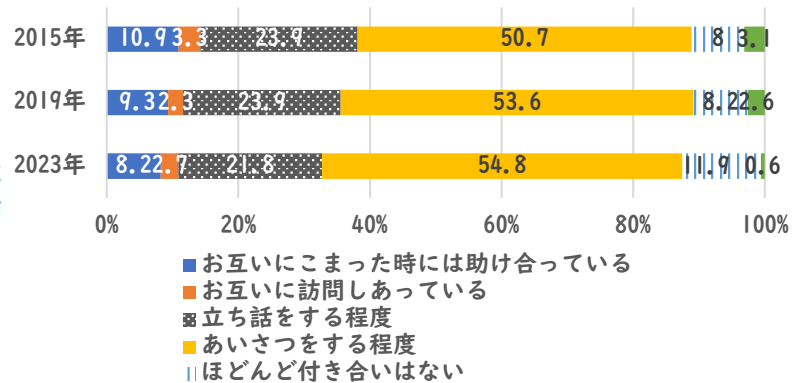
自治会町内会の加入率は低下傾向で、日頃の近所づきあいの程度としては、「あいさつをする程度」が増加しています。

自治会町内会加入率の推移(都筑区)



出典: 統計で見るつづき(市民局地域活動推進課)

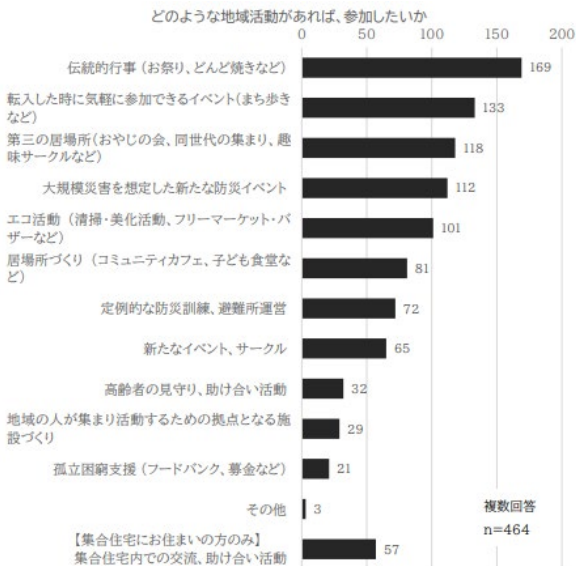
日頃、どの程度の近所づきあいをしているか



出典: 2023 年度都筑区民意調査

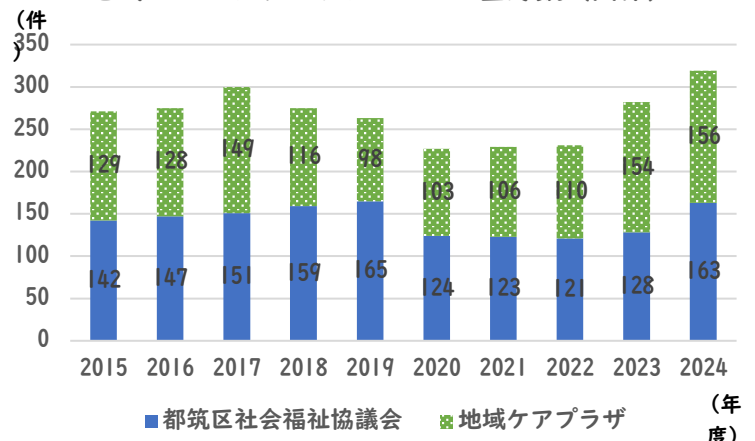
(11) 地域活動

伝統的行事に加え、「気軽に参加できるイベント」へのニーズが高いです。また、新型コロナウイルス感染症の影響で減少していたボランティア登録数は再び増加しています。



出典: 「地域活動や人とのつながりづくり」に関するアンケート

都筑区社会福祉協議会・
地域ケアプラザのボランティア登録数(団体)



出典: 地域ケアプラザ四半期報告
区社会福祉協議会実績報告

2 関係者・関係団体へのヒアリング

令和6年9月から11月に、「日々の活動を通じて感じる課題」や「2030年に目指す都筑区の姿」についてヒアリングを行いました。

民生委員・児童委員

- ・誰もが納得できる日常生活を送れるように、孤立しないような支援が必要。
- ・身近な関係団体（高齢、障害関係等）と連携できる仕組みが必要。

主任児童委員

- ・表に出てこない方へのアプローチが難しい。
- ・子どもを真ん中において、障害の有無、国籍等関係無しに、地域のみんなで支援できると良い。
- ・子どもと高齢者が交流できる仕組みがあると良い。

自立支援協議会

- ・当事者が安心して地域とつながれるよう、支援者が橋渡しできると良い。
- ・障害理解やメンタルヘルスに関して、子どもたちへの普及啓発も進めたい。
- ・見えない SOS をキャッチするために、地域の民生委員やケアプラザ等とつながり、情報共有できると良い。

保健活動推進委員

- ・単に健康づくりを進めるのではなく、人とのつながり（出会い、理解していく）を大切にしている。
- ・他団体とのコラボにより、あらゆる年代の方に健康づくりの活動に参加してほしい。

青少年指導員

- ・高校生になると地域で顔が見えなくなる。地域と中学生・高校生を結ぶイベントがあったらよいと思う。
- ・青少年がお手伝いとしてではなく、「楽しく、前向きに」主体的にボランティアに参加できる機会が必要。

地区社協分科会

- ・上手に世代交代をしていくにはどうしたらよいか。
- ・困りごとを話せる地域、困りごとを他人ごとにしなない地域にしていく。
- ・見守りが進んでいるまちになってほしい。

ボランティア分科会

- ・隣の人とのつながりが少ない。
- ・枠を限定せずに知り合える場があると良い。
- ・活動を発信していくことが大切。
- ・活動場所の確保。
公共施設をもっと使いやすくしてほしい。

北部ユースプラザ

- ・就労でも進学でもない居場所が求められている。
- ・無償や有償のボランティア活動先を開拓できると良い。
- ・家庭内不和、虐待、国籍、労働問題、多重債務等、複雑に課題が絡んでいる利用者が多い。

青少年

- ・自分でボランティア活動を選べるのが良かった。
- ・ボランティアでは、普段関わる機会のあまりない人と、関わるができるのが楽しい。
- ・横断歩道での見守りなどやってみたいけど、どこに連絡したらいいかわからない。

老人クラブ

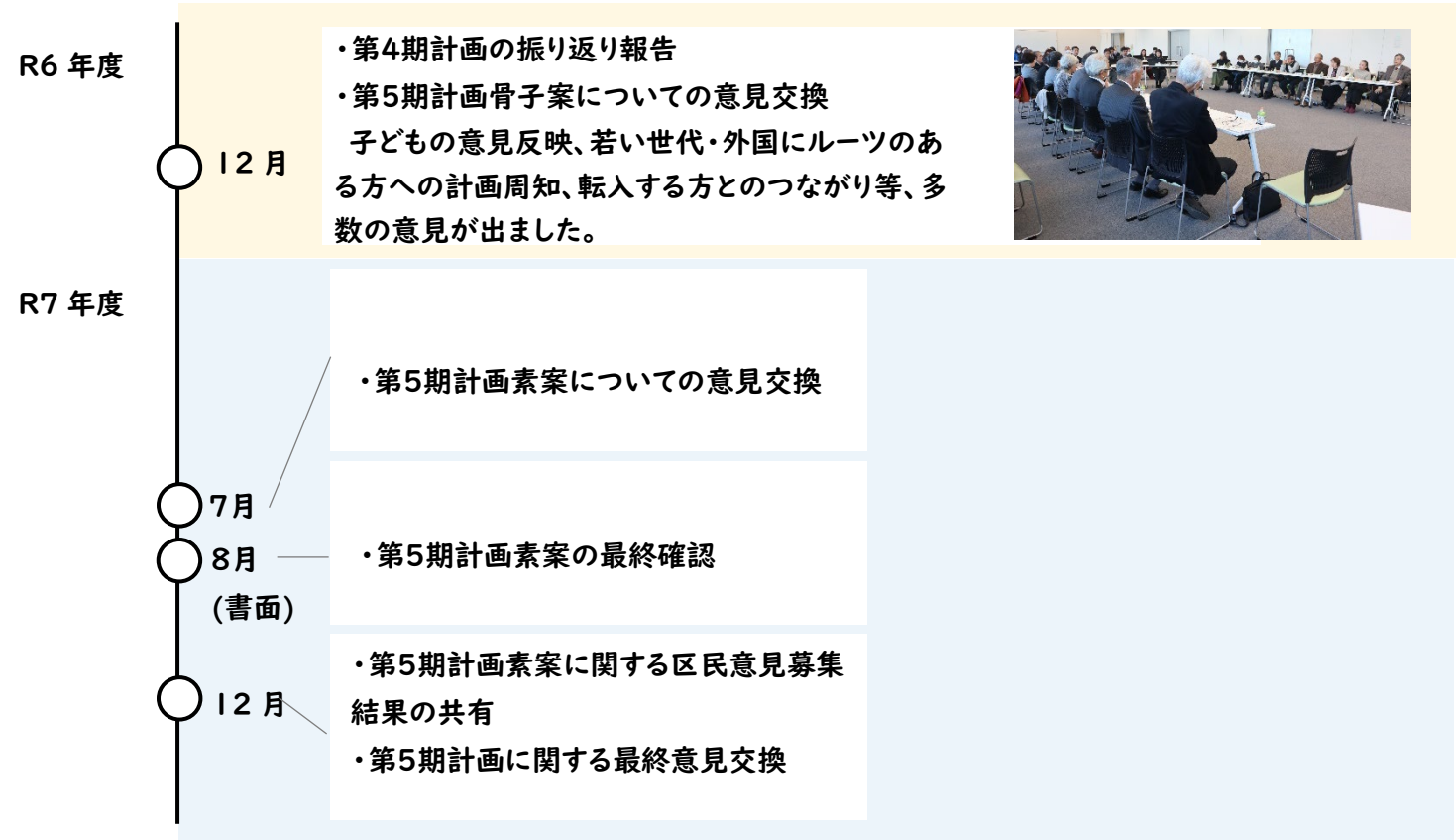
- ・老人クラブがどの地域にもあり、活性化されると良い。
- ・老人クラブの活動についてもっと知ってもらえると良い。
- ・70代前半の方に入会してほしい。

たくさんのご意見をいただきました。



3 都筑区地域福祉保健計画推進委員会

(1)開催内容



(2)都筑区地域福祉保健計画推進委員

33 ページをご覧ください。

4 都筑区内15地区での話し合い(地域懇談会等)で出た意見

「第4章 第5期都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」地区別計画」(21 ページ)をご覧ください。

5 区民意見募集

2025 年(令和7年)10 月1 日～31 日で実施。

様々な立場の人の声を聴くこと

多様な視点を取り入れることが、誰もが暮らしやすい地域づくりにつながります。

区民まつりでは、未来に向け住んでいるまちで「自分にできること」「自分にできそうなこと」をみんなで書き、大きなあいちゃんを完成させました。

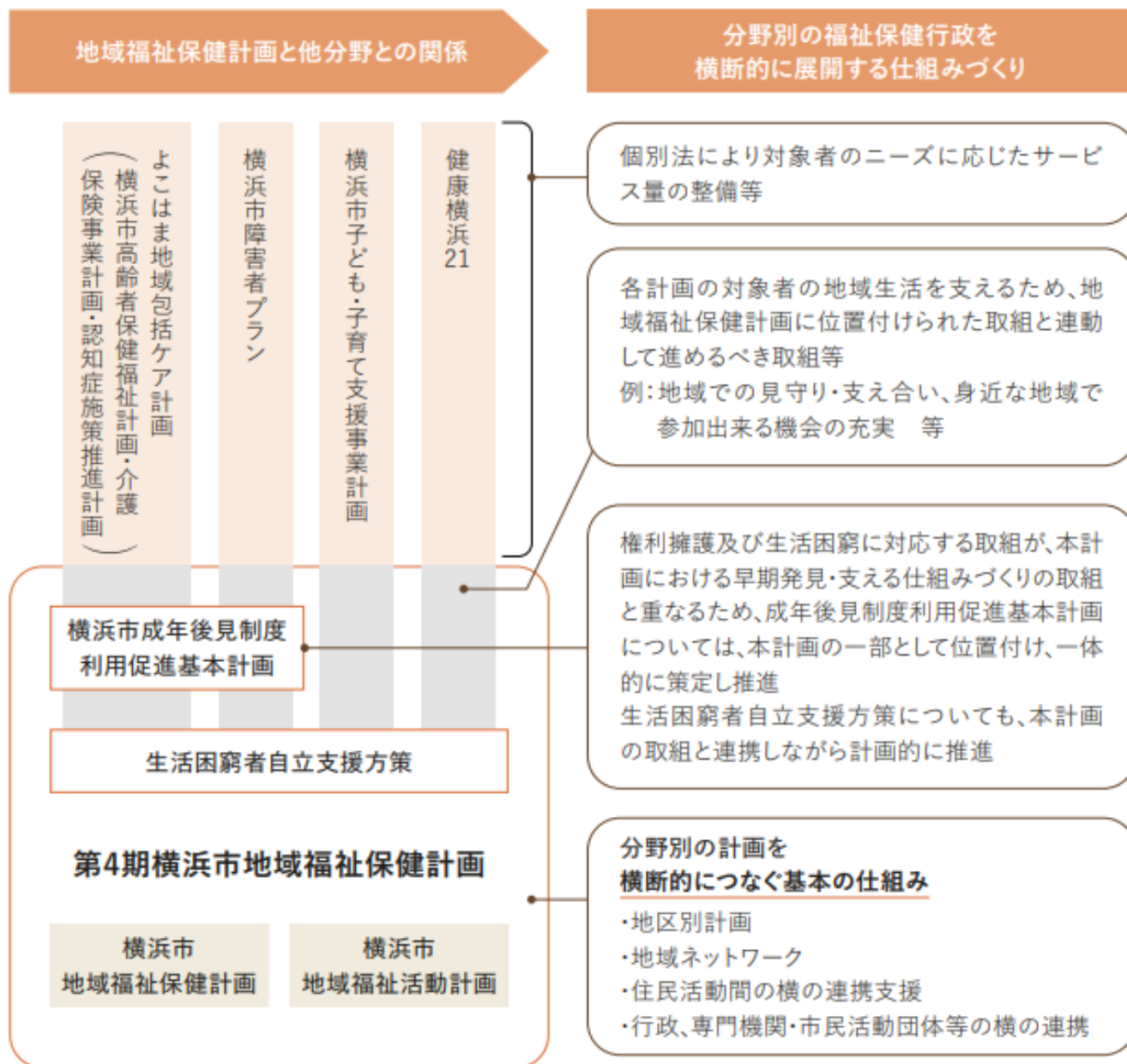


地域福祉保健計画の位置づけ

横浜市では、福祉保健の分野別の計画を策定しています。

地域福祉保健計画は、地域の視点から分野別計画に共通する理念や方針、地域における取組の方向性等を明示し、対象者全体の地域生活の充実を図ることを目指しています。

また、分野別計画で示している対象者の地域生活を支えるための事業や支援については、地域福祉保健計画と連動して取り組んでいきます。



社会福祉法第107条で「努力義務」となっている「地域福祉計画」の策定

地域で暮らす人々が生活上の課題を抱えながらも、互いにつながり、支えあうことで、一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともにつくっていくことのできる「地域共生社会」の実現に向けた取組が進められています。

地域共生社会の実現に向けて、2018年(平成30年)施行の改正社会福祉法により、「任意」であった地域福祉計画の策定が「努力義務」となりました。

都筑区地域福祉計画推進委員名簿（2024年度・2025年度）

※五十音順 敬称略

	委員名	所属
1	大野 和子	都筑区保健活動推進員会 会長
2	木村 博子	都筑区主任児童委員連絡会 代表
3	桑原 正盈	都筑区老人クラブ連合会 会長
4	小泉 雅二	都筑区社会福祉協議会 ボランティア・市民活動等分科会 会長
5	小林 達夫	都筑区民生委員児童委員協議会 会長
6	小林 雅子	都筑区医師会 理事
7	坂田 信子	都筑区障害児・者福祉団体連絡協議会 会長
8	佐藤 洋子	NPO 法人こども応援ネットワーク 理事長（都筑区子育て支援センター Popola 運営法人）
9	志田 政明	都筑区青少年指導員連絡協議会 会長
10	高橋 美都子	都筑区小学校長会地域福祉保健関係担当 横浜市立茅ヶ崎小学校 校長
11	林田 育美	都筑多文化・青少年交流プラザ（つづき MY プラザ） 館長
12	堀内 哲也	つづき地域活動ホームくさぶえ 所長
13	堀越 淳子	都筑区食生活等改善推進員会 会長
14	増田 友昭 (2024 年度)	都筑区中学校長会地域福祉保健関係担当 横浜市立中川中学校 校長
	小嶋 貴之 (2025 年度)	
15	宮川 智行 (2024 年度)	都筑区歯科医師会 会長
	河野 伸二郎 (2025 年度)	
16	村田 輝雄	都筑区社会福祉協議会 会長
17	吉野 富雄	都筑区連合町内会自治会 会長
18	名和田 是彦	法政大学法学部 教授(学識経験者)

キリトリ線

第5期「つづき あい」素案について
ご意見をお聞かせください

キリトリ線

ご協力ありがとうございました。

意見募集

第5期「つづき あい」の素案ができましたので、区民のみなさまのご意見を募集します。
いただいたご意見は、今後の計画策定の参考にさせていただきます。

いずれかの方法でお寄せください。

①電子申請フォーム 右記二次元コードまたは下記 URL からアクセスできます

②電子メール tz-tifuku@city.yokohama.lg.jp

③郵便 本冊子に印字されている専用はがきをご利用ください。その他、封書でも可能です。

④FAX 045-948-2354

※電子メール・封書・FAX の場合の書式は問いませんが、お住まいの町名、年齢はご記入ください

電子申請
二次元コード
準備中

◆意見募集期間 2025年(令和7年)10月1日(水)～10月31日(金)必着

◆提出にあたっての留意事項

- ・いただいたご意見は都筑区地域福祉保健計画推進委員会へ報告するとともに、ホームページで公表します。
- ・個別の回答はいたしませんのでご了承ください。
- ・ご意見の提出に伴い取得した個人情報とは適正に管理し、本意見募集以外の目的で利用することはありません。

キリトリ線

郵便はがき

224-8790

<受取人>

横浜市都筑区茅ヶ崎中央 32-1

横浜市都筑区役所
福祉保健課 事業企画担当行

お名前の記入は不要です

差出人情報

お住まいの町名 ()

年代: a. 小学生以下 b. 中学生

c. 15 歳(中学生以外)～17 歳

d. 18 歳～29 歳

e. 30～39 歳 f. 40～49 歳

g. 50～59 歳 h. 60～64 歳

i. 65～75 歳 j. 75 歳以上

キリトリ線

<問い合わせ先>

都筑区役所 福祉保健課事業企画担当
〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 32-1
電話:045-948-2344 FAX:045-948-2354
メール:tz-tifuku@city.yokohama.lg.jp

社会福祉法人 横浜市都筑区社会福祉協議会
〒224-0006 横浜市都筑区荏田東 4-10-3
港北ニュータウンまちづくり館内
電話:045-943-4058 FAX:045-943-1863
メール:info@tuzuki-shakyo.jp

■意見交換シート

今回の推進委員会では、次の項目について意見交換を行います。
いずれかのテーマでご意見をお伺いしますので、資料をご参照のうえ、可能な範囲であらかじめご意見をお考えのうえでご参加いただけますと幸いです。

■素案に関する区民意見募集の方法について	■素案の内容について 素案(案) P.17参照	■全体(自由意見)
①多様な方から意見をもらうための工夫 ⇒委員の皆様のお近くの人に意見をもらうためのアイデアを教えてください。	①「多様性」という言葉の理解を深める漫画もしくはイラストの掲載を検討しています。 ⇒皆さんにとっての「多様性」とは何でしょうか。	素案(案)全体を通して気になる箇所(良い点・表現が分かりにくい点等)がありましたら教えてください。
②区民意見募集の周知方法 ⇒周知方法で工夫できる点があれば教えてください。	②目指す姿3(素案(案)17ページ)の「背景や課題」の1つ目の文章に、下記の【 】の文言を入れるか事務局で思案しています。 【障害のある人や外国人、性的少数者等】、様々な立場や背景のある人に対する～… ⇒皆様のお考えをお聞かせください。	
【記入欄】	【記入欄】	【記入欄】

本用紙はご提出の必要はございませんが、策定の参考とさせていただきたいため、記載されましたら、差し支えなければ委員会終了後に事務局でお預かりさせていただきますと幸いです。
(メモのような記載でも構いません。)